



第1回 JFA グラスルーツアンケート調査 報告書

2015年12月
公益財団法人日本サッカー協会
グラスルーツ推進部

目次

はじめに	3
JFA グラスルーツ宣言と6つのキーワード	4
アンケートの概要	5
アンケート調査結果	
<基本情報>	
回答者の年齢・性別	7
回答者の活動エリア	8
回答者とサッカーとの関わり（複数回答可）	8
回答者とサッカーとの関わり：チームやスクールに関係していますか？	9
チームやスクールでどの種目を行っていますか？（複数回答可）	9
チームやスクールの選手の総数	10
チームやスクールの選手の年代（複数回答可）	10
チームやスクールの選手の性別	10
チームやスクールの指導者数	11
チームやスクールの活動場所（複数回答可）	11
<6つのキーワードに関して>	
6つのキーワードに関する賛否	13
キーワード1：引退なし	14
キーワード2：補欠ゼロ	16
キーワード3：障がい者サッカー	18
キーワード4：他スポーツとの協働	20
キーワード5：施設の確保	22
キーワード6：社会的課題への取り組み	24
おわりに	26
ご意見・ご提案集（抜粋）	28

はじめに

2014年5月15日、日本サッカー協会（JFA）は「Football for All サッカーを、もっとみんなのものへ。」というスローガンを掲げ、「JFA グラスルーツ宣言」を発表し、誰もがいつでもどこでも、安心・安全にサッカーやスポーツが楽しめる環境づくりを行っていくことを宣言しました。

その取り組みの方針は次の通りです。

- ① 「Football For All サッカーを、もっとみんなのものへ。」というコンセプトのもとでグラスルーツサッカーをあらためて捉えます。
- ② 下記の必要な活動すべてを網羅し、全体像を見据えながら、包括的に取り組みます。
 - ◆ 参加者の増加と継続
 - ◆ 安心・安全の確保のための、ハード面、ソフト面など、様々な環境の整備
 - ◆ サッカー体験を生み出す場という観点での施設環境の確保、活用、質の向上
 - ◆ 選手の育成基盤という観点でのトレーニング環境の質的向上
 - ◆ 必要かつ適切な大会やイベントの創出と効果的な実施・運営
 - ◆ 専門人材、ボランティアの確保と養成
 - ◆ クラブのコミュニティ機能の充実と発展（クラブ文化の醸成）
 - ◆ サッカーファミリー全体とのつながりづくりとサポート（メンバーシップの最適化）
 - ◆ サッカーを通じた社会貢献の検討
 - ◆ 継続的な調査・研究と情報共有、効果的なプロモーションによる啓発

この方針中にある『全体像を見据えながら』について、まずは日本におけるグラスルーツの現状を知ることが最も重要であると考え、この度のアンケートを実施しました。もちろん、この1回のアンケートだけで全体像を十分に把握できるとは思っておりません。地域によっては状況がまったく異なるでしょう。アンケートだけでなく、実際の現場に訪問し、関係者と意見交換することも非常に大事な事だと考えています。そのようなことも踏まえながら、今後も全体像の把握に努め、より良い施策が実施できるよう取り組んでいく所存です。

今回のアンケートは、日頃からサッカーやフットサル等の活動に従事しておられるチーム/クラブの関係者や指導者の方々を対象のメインに置き、現場の状況を把握するだけでなく、JFAとしての今後の取り組みに向けた考え方を示し、その考え方が本当に現場の改善に適するものなのかを検証することも目的の一つとしました。また、こちらで答えを用意し、それを選択する方式ではなく、各人のご意見や活動等を何う記述方式としました。そのため、回答者の方々には大変ご負担のかかるアンケートになってしまいましたが、多くの方々から熱心かつ真摯なご回答をいただき、回答者数は1,507人、記述していただいたコメント総数は8,027となりました。

本調査は外部の調査機関に委託せず、独自でWebサイトを利用して行ったため、「設問の意図がよく分からない」、「アンケートのやり方がおかしい」などの厳しいご意見もございました。しかし、そのような不明瞭なアンケートにもかかわらず、多くの方々ご意見が汲み取っていただき、貴重な時間を割いて本調査ご協力下さったことを心より感謝申し上げます。今後も適宜、現状把握のためにアンケート調査を実施していく所存ですが、今回の調査方法を検証し、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、より良いアンケート調査になるよう努めてまいります。今後も引き続きご協力の程、よろしく願い申し上げます。

2015年12月
公益財団法人日本サッカー協会
グラスルーツ推進部

JFA グラスルーツ宣言と 6 つのキーワード

<JFA グラスルーツ宣言>



Football For All

サッカーを、もっとみんなのものへ。

年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも。

私たち日本サッカー協会は、サッカー、そしてスポーツの持つすばらしさを
もっともっと、たくさんのおみなさんと分かち合い、育みたいと考えています。

だれもが、サッカーの楽しさに触れられるように！

サッカーとのすばらしい出会いやきっかけを、たくさんご用意します。

だれもが、サッカーをもっと身近に感じられるように！

自分のニーズや希望にあったサッカーの選択肢を、次々と増やします。

だれもが、心からサッカーを楽しめるように！

安全に、安心してサッカーを楽しめる環境を、しっかりと整えます。

<6 つのキーワード>

上記の JFA グラスルーツ宣言の具現化のために JFA として何をすべきかを考える中で、競技スポーツ団体として競技力向上に
取り組み、一定の成果を挙げてきた裏で、多くの人達がサッカーから離れている現実を見つめ直してみました。

Jリーグ開幕や様々な強化・育成施策により、20 年前までアジアを突破できなかった日本代表が、ワールドカップやオリンピック
に連続出場するまでの力をつけて来ました。しかし、一方でサッカーを好きなのに続けていけない人達、サッカーが楽しくなくなって
離れていく人達、サッカーをやりたいのに始められない人達が存在しています。その人達のためにできることは何かを考え、6 つの
キーワードとその考え方を提示し、ご意見を伺うことにしました。

キーワード 1：引退なし

日本では、中学、高校、大学・社会人と、年齢が上がるごとにチーム数が少なくなり、全ての人々がサッカーを続けられる場所が
用意されているわけではありません。いくらサッカーが好きでも、サッカーを続けられなくなる人が多く存在します。「引退する」が当
たり前ではなく、「継続する」を当たり前な環境にするために、生涯こわってサッカーを楽しめるクラブやいくつになっても気軽にサカ
ーが楽しめる場づくりをサポートしていきたいと考えています。

キーワード 2：補欠ゼロ

サッカーをやっていて一番楽しいと思うのは試合です。近年は関係者の努力により、リーグ戦の整備が進み、試合の機会は増
えています。しかし、多くの選手をかかえるチームでは、大会／リーグ等の公式戦に出場できない選手が多くいます。また、指導者
の偏った勝利至上主義で試合に出場できない、指導者不足で複数のチームが編成できない、競技会に複数チームのエントリー
ができない、等出場できない理由は様々です。「万年補欠はしょうがない」ではなく、それぞれの選手のレベルに応じて、みんなが
必ず試合を楽しめる環境や、試合の場を求めて選手が移籍することを悪いことと捉えるのではなく、プレーヤーズ・ファーストの観
点で考えられるような環境となるよう、サポートしていきたいと考えています。

キーワード 3：障がい者サッカー

JFA は 2015 年 4 月、次の 7 つの障がい者サッカー団体、日本アンパティサッカー協会、日本ソーシャルフットボール協会、日
本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、日本脳性麻痺 7 人制サッカー協会、日本ブラインドサッカー協
会、日本ろう者サッカー協会と共に、障がい者サッカー協議会を設置しました。今後は、障がい者サッカーを統括する連盟の設立
や障がい者サッカーの普及・発展をサポートすることにより、サッカーを通じて障がい者も健常者も普通に交わる社会の実現を目

指します。

キーワード4：他スポーツとの協働

幼少期は、サッカーだけでなく、他のスポーツや遊び、社会的な活動など、様々なことを経験することによって、豊かな感性・創造性・自主性などが育まれていくと考えています。サッカーが好きでサッカーだけ続けるのは本人の自由ですが、他のスポーツなどを選択するのもまた自由です。本人の個性や特徴が活かせる選択肢が少しでも多く持てる環境があれば、楽しくスポーツを続けていくことができるのではないのでしょうか。また、サッカーの環境だけが充実すれば良いという考えではなく、他のスポーツ団体と協働し、より多くの人達がスポーツを継続して楽しめるようなスポーツ全体の環境整備に努めていきたいと考えています。

キーワード5：施設の確保

サッカーに関わる様々な活動を行うためには、施設を確保することが最重要課題です。施設が不足している地域では、施設の取り合いで、チーム同士の関係が悪化しているところもあります。そのような状況から脱却するために、「施設を借りる」というだけでなく「施設を造る」という取り組みが必要だと考えています。遊休地、廃校、休耕田、空き倉庫、ゴルフ場空きスペース等の利活用や PFI 方式(自治体の土地を利用し民間が施設を造る) 等による施設づくり、各種助成制度を活用した場所の確保など、自由に使える施設を、チームやクラブが自分達で整備していけるようにサポートしたいと考えています。

キーワード6：社会的課題への取り組み

私達の住んでいる地域には、それぞれに社会的な課題が存在します。いじめ、不登校、ひきこもり、自殺、ゲーム依存、児童虐待、待機児童、過疎化、少子高齢化など、その課題は様々です。スポーツにはそういった課題を減少させたり緩和できる力があると考えています。サッカーやスポーツを通じて、それらの課題解決に取り組むことによって、少しでも社会が明るくなれば、社会におけるスポーツの価値も高まります。その結果、より多くの賛同者や協力者が集まり、より良い活動に繋げて行くことができるのではないかと思います。このような地域社会のための活動をサポートしていきたいと考えています。

アンケートの概要

目的：JFA グラスルーツ宣言の具現化につながる現場の取り組みを把握する。

期間：2015年5月20日(水)～7月31日(金)

対象：サッカークラブの関係者や指導者ほか、サッカーを愛するすべての皆様

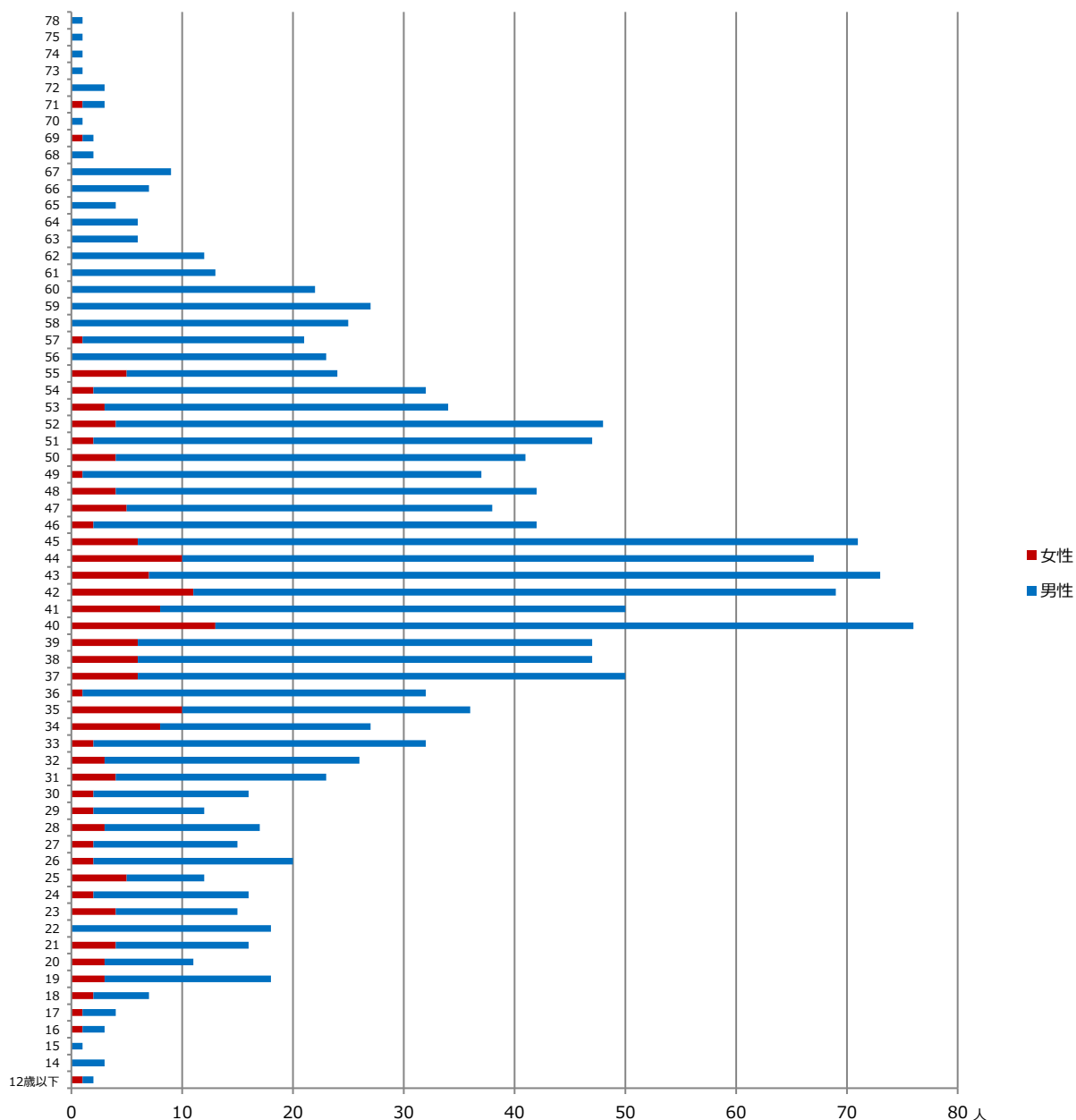
内容：以下のキーワードに関するサッカー活動現場についてのアンケート

「引退なし」、「補欠ゼロ」、「障がい者サッカー」、「他スポーツとの協働」、「施設の確保」、「社会的課題への取り組み」

実施方法：JFA 公式ウェブサイト「JFA.jp」上の専用オンラインウェブフォームから回答

アンケート調査結果（基本情報）

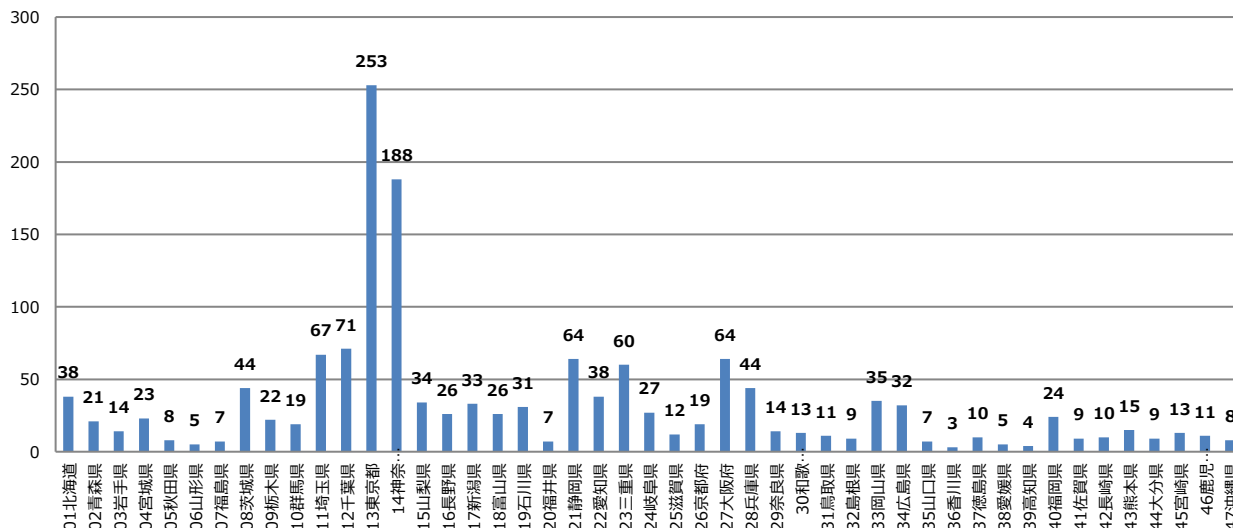
回答者の年齢・性別



年代区分	男性	女性	合計
20歳未満	30人	8人	38人
20歳～29歳	125人	27人	152人
30歳～39歳	288人	48人	336人
40歳～49歳	498人	67人	565人
50歳～59歳	301人	21人	322人
60歳以上	92人	2人	94人
合計	1,334人	173人	1,507人

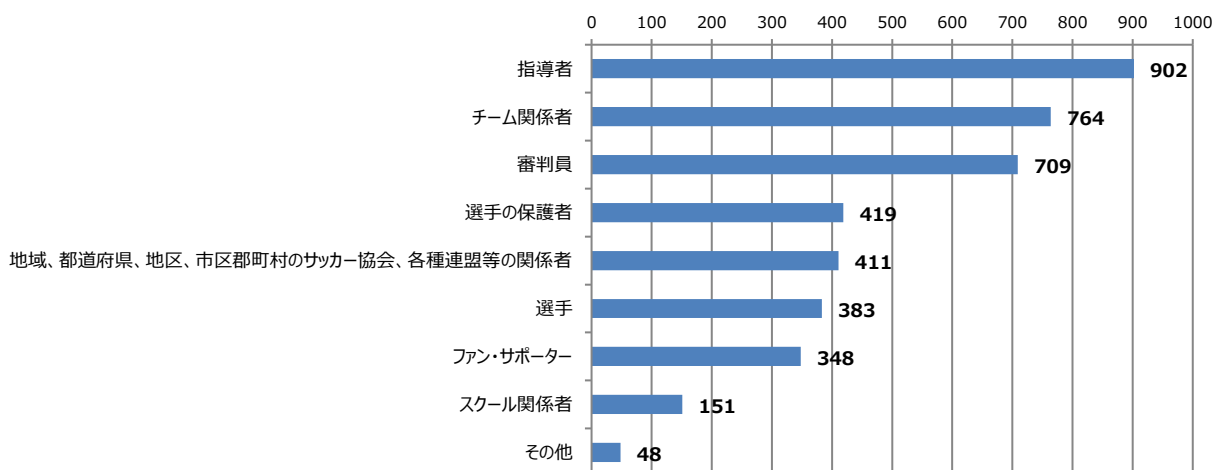
総回答者数は1,507人、うち男性が1,334名（89%）、女性が173名（11%）で、回答者は30代から50代が多く、平均は42.6歳でした。

回答者の活動エリア



47 都道府県すべてから回答をいただきました。回答者の活動エリアの中で特に多かったのが東京都（253 人）、神奈川県（188 人）となっています。

回答者とサッカーとの関わり（複数回答可）

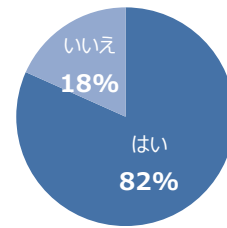


回答	回答数	回答者数に対する割合
指導者	887 人	59%
チーム関係者	757 人	50%
審判員	696 人	46%
選手の保護者	409 人	27%
地域、都道府県、地区、市区郡町村のサッカー協会、各種連盟等の関係者	405 人	27%
選手	382 人	25%
ファン・サポーター	343 人	23%
スクール関係者	148 人	10%
その他	43 人	3%
回答者数	1,507 人	(複数回答可)

サッカーとの関わりについては、指導者（59%）、チーム関係者（50%）、審判員（46%）の回答をされた方が多い結果となりました。

回答者とサッカーとの関わり：チームやスクールに關係していますか？

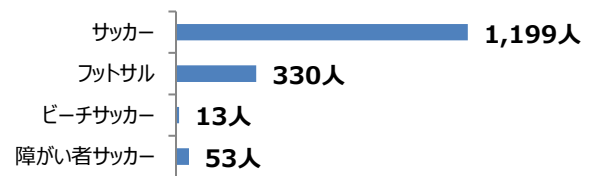
回答	回答数	割合
はい	1,231 人	82%
いいえ	276 人	18%
合計	1,507 人	



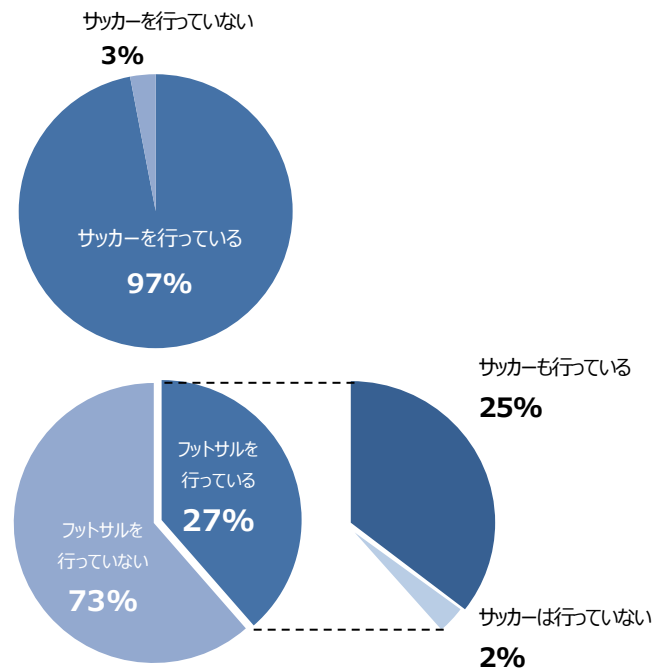
回答していただいた方の 82%、1,231 人が、自身がチームやスクールに關係していると答えました。

チームやスクールでどの種目を行っていますか？（複数回答可）

回答	回答数	回答者数に対する割合
サッカー	1,199 人	97 %
フットサル	330 人	27 %
ビーチサッカー	13 人	1 %
障がい者サッカー	53 人	4 %
回答者数	1,231 人	(複数回答可)



回答の組み合わせ	回答数	割合
サッカー	867 人	70%
サッカー、フットサル	278 人	23%
障がい者サッカー	19 人	2%
フットサル	18 人	1%
サッカー、障がい者サッカー	11 人	1%
サッカー、フットサル、障がい者サッカー	9 人	1%
フットサル、障がい者サッカー	7 人	1%
サッカー、フットサル、ビーチサッカー	6 人	0%
サッカー、フットサル、ビーチサッカー、障がい者サッカー	3 人	0%
ビーチサッカー	2 人	0%
サッカー、ビーチサッカー	2 人	0%
その他	9 人	1%
合計	1,231 人	

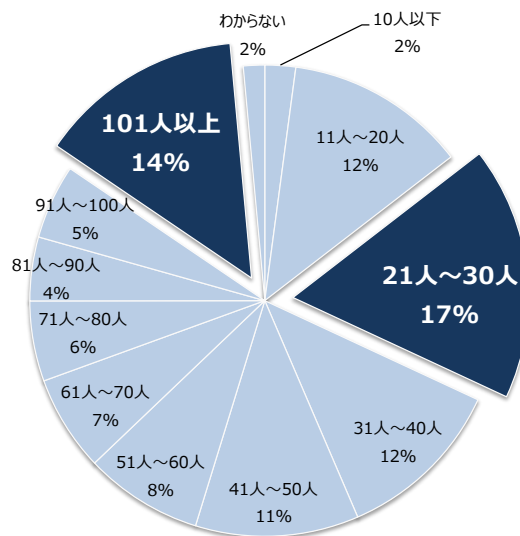


注) 「障がい者フットサル」の回答は、「障がい者サッカー」に含めました。

チームやスクールに關係していると答えた方の中で、97%がサッカーを、27%がフットサルの種目を行っています。「フットサルを行っている」と答えた方のほとんどはサッカーも行っており、「行っていない」と答えたのは「チームやスクールに關係している」と答えた方の中の 2%でした。

チームや学校の選手の総数

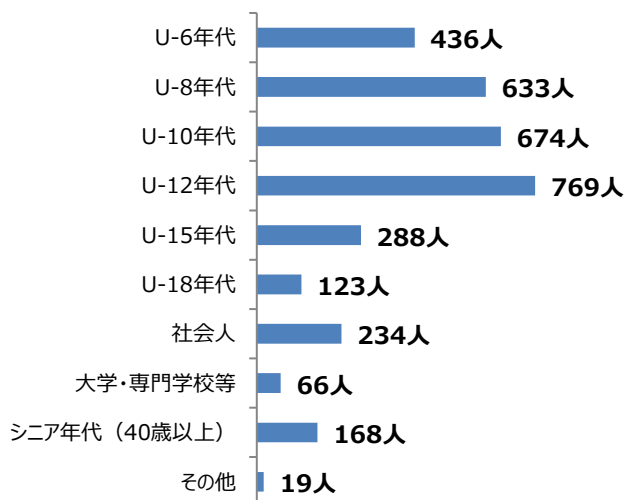
回答	回答数	割合
10人以下	26人	2%
11人～20人	153人	12%
21人～30人	214人	17%
31人～40人	143人	12%
41人～50人	138人	11%
51人～60人	100人	8%
61人～70人	81人	7%
71人～80人	68人	6%
81人～90人	54人	4%
91人～100人	63人	5%
101人以上	173人	14%
わからない	18人	1%
合計	1,231人	



チームや学校の選手の総数として最も多かった回答は、「21人～30人」でした。「101人以上」という回答も14%ありました。

チームや学校の選手の年代（複数回答可）

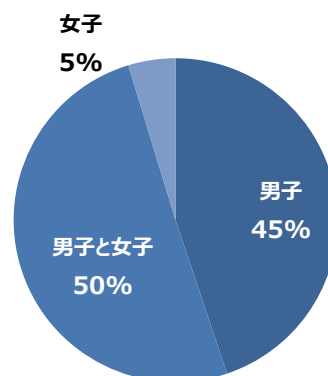
回答	回答数	回答者数に対する割合
U-6年代	436人	35%
U-8年代	633人	51%
U-10年代	674人	55%
U-12年代	769人	62%
U-15年代	288人	23%
U-18年代	123人	10%
社会人	234人	19%
大学・専門学校等	66人	5%
シニア年代（40歳以上）	168人	14%
その他	19人	2%
回答者数	1,231人	（複数回答可）



多くの方が、「小学生年代」のチームや学校に関わっていると回答しました。

チームや学校の選手の性別

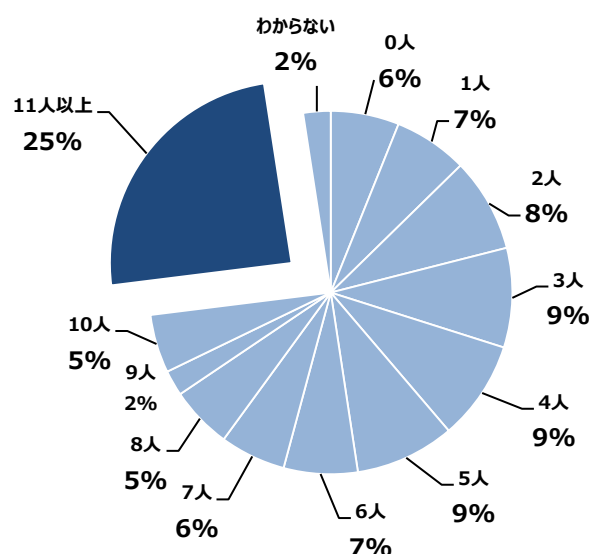
回答	回答者数	割合
男子	552人	45%
男子と女子	621人	50%
女子	58人	5%
合計	1,231人	



男子のみで活動しているチーム・スクールが45%、男子と女子の選手がいるチーム・スクールが50%で、女子のみで活動しているチーム・スクールは5%でした。

チームや学校の指導者数

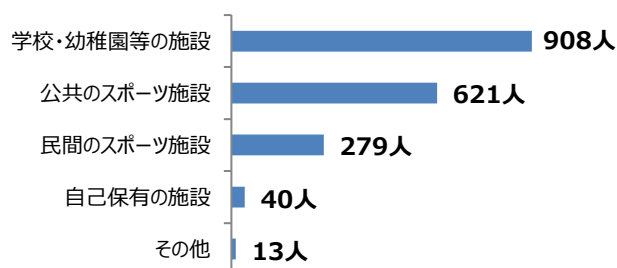
回答	回答者数	割合
0人	75人	6%
1人	81人	7%
2人	103人	8%
3人	109人	9%
4人	109人	9%
5人	109人	9%
6人	81人	7%
7人	72人	6%
8人	68人	6%
9人	28人	2%
10人	64人	5%
11人以上	302人	25%
わからない	30人	2%
合計	1,231人	



回答者の4分の1が、チームや学校に11人以上指導者がいると答えました。

チームや学校の活動場所（複数回答可）

回答	回答者数	回答者数に対する割合
学校・幼稚園等の施設	908人	74%
公共のスポーツ施設	621人	50%
民間のスポーツ施設	279人	23%
自己保有の施設	40人	3%
その他	13人	1%
回答者数	1,231人	(複数回答可)



(回答の組み合わせ) ※「企業の施設」は、「民間のスポーツ施設」としてカウント。

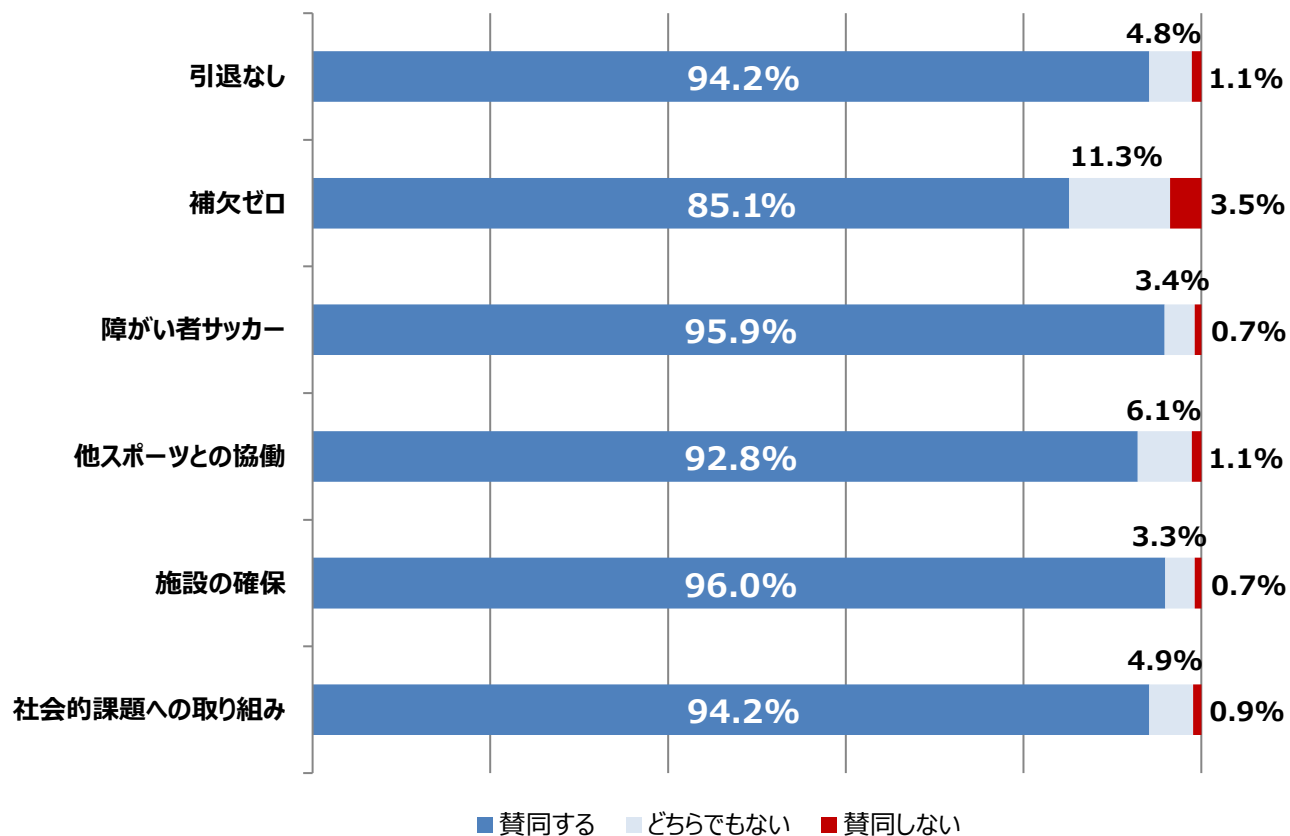
回答	回答者数	割合
学校・幼稚園等の施設	397人	32%
公共のスポーツ施設, 学校・幼稚園等の施設	325人	26%
公共のスポーツ施設	194人	16%
公共のスポーツ施設, 民間のスポーツ施設, 学校・幼稚園等の施設	127人	10%
公共のスポーツ施設, 民間のスポーツ施設	74人	6%
民間のスポーツ施設	35人	3%
民間のスポーツ施設, 学校・幼稚園等の施設	21人	2%
その他の組み合わせ	26人	3%
合計	1,231人	

チームや学校の活動場所については、学校・幼稚園等の施設が最も多く、次いで公共のスポーツ施設、民間のスポーツ施設となりました。自己保有の施設で活動していると答えた方は、全体の3%、40人にとどまりました。

アンケート調査結果（6つのキーワードについて）

6つのキーワードに関する賛否

回答者数：1,507人



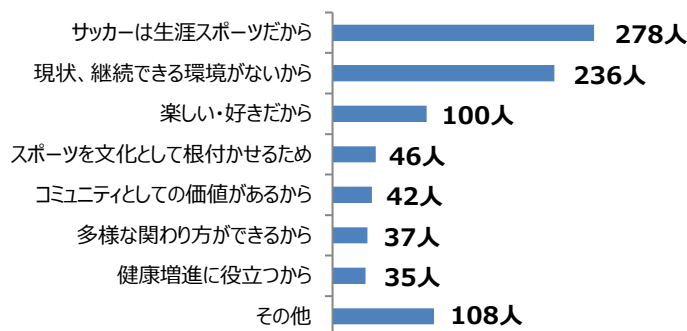
6つのキーワードのうち5つのキーワードで、賛同するとの回答が9割を越えました。補欠ゼロのキーワードにおいても85%を越え、全てのキーワードの考え方に対して、概ね賛同を得られた結果となりました。

キーワード1：引退なし

日本では、中学、高校、大学・社会人と、年齢が上がるごとにチーム数が少なくなり、全ての人サッカーが続けられる場所が用意されているわけではありません。いくらサッカーが好きでも、サッカーを続けられなくなる人が多く存在します。「引退する」が当たり前ではなく、「継続する」を当たり前の環境にするために、生涯にわたってサッカーを楽しめるクラブやいくつかになっても気軽にサッカーが楽しめる場づくりをサポートしていきたいと考えています。

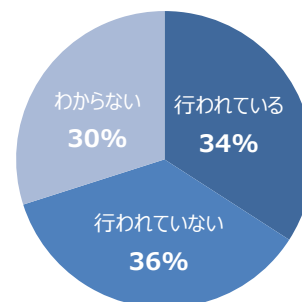
このような考え方に賛同しますか？

賛同する	1,419人	94%
サッカーは生涯スポーツだから	278人	
現状、継続できる環境がないから	236人	
楽しい・好きだから	100人	
スポーツを文化として根付かせるため	46人	
コミュニティとしての価値があるから	42人	
多様な関わり方ができるから	37人	
健康増進に役立つから	35人	
その他	108人	
(未回答)	537人	
賛同しない	16人	1%
どちらでもない	72人	5%



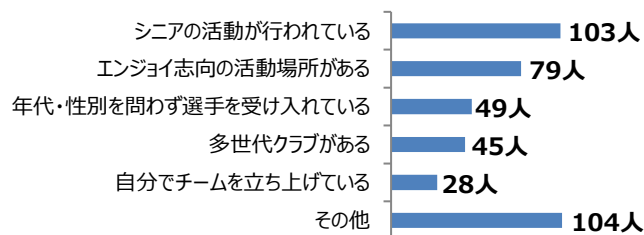
引退なしの取り組みが、あなたのまわりで行われていますか？

行われている	514人	34%
行われていない	542人	36%
わからない	451人	30%



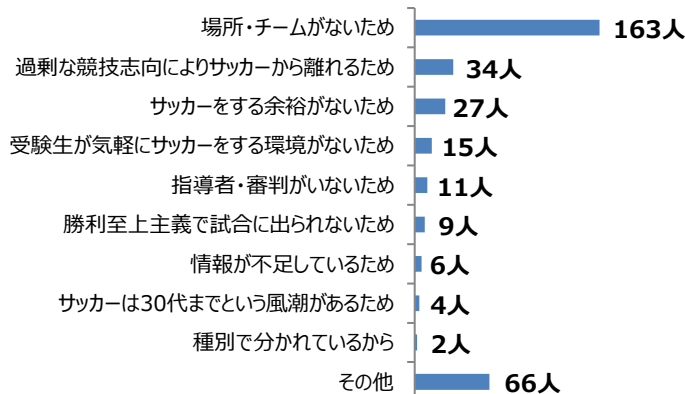
行われている場合、その内容を教えてください。

シニアの活動が行われている	103人
エンジョイ志向の活動場所がある	79人
年代・性別を問わず選手を受け入れている	49人
多世代クラブがある	45人
自分でチームを立ち上げている	28人
その他	104人



行われていない場合、その理由がわかれば教えてください。

場所・チームがないため	163人
サッカーをする余裕がないため	27人
過剰な競技志向によりサッカーから離れるため	34人
受験生が気軽にサッカーをする環境がないため	15人
指導者・審判がないため	11人
勝利至上主義で試合に出られないため	9人
情報が不足しているため	6人
サッカーは30代までという風潮があるため	4人
種別で分かれているから	2人
その他	66人



「引退なし」の考えに「賛同する」は94%でした。主な理由は「サッカーは生涯スポーツだから」、「現状、継続できる環境がないから」、「楽しい、好きだから」という内容が大半を占め、サッカーは「スポーツを文化として根付かせる力」や「コミュニティとしての価値」を持っているという主旨の回答も多くありました。「賛同しない」は1%でしたが、主な理由は「場所がないのにチームやクラブが増やすことに反対」という意味合いであり、必ずしも継続することに反対ということではありませんでした。

「引退なし」の活動が行われていると回答した方は34%で、シニアの活動に関するものが最も多くありました。活動が行われていない理由としては、「場所、チームがない」が大半で、大人は「続けられる余裕がない」、子供達は「過剰な競技指向によりサッカーから離れてしまう」、全体的には「気軽にボールを蹴れる場所がない」という主旨の回答が多くありました。

サッカーを好きな人は、いつまでもサッカーに関わってほしいと思っている人が多く、自分だけでなく子供達にもずっとサッカーを続けて欲しいと思っていますが、現状では場所がないので継続は難しいと感じています。

ご意見・ご提案から

40代男性

私は小学生からサッカーを初めて社会人でサッカーを続けていましたが30代になり仕事優先の立場になるとサッカーをする機会を奪われました。40代になり選手としてサッカーに関わりたと思ったのですがチームに入る人脈がなくたまたま指導者を探している少年団から声がかかり再びサッカーと接する事ができましたが自分自身プレーをしたいという気持ちを押しさえられません。自分の年齢に近い仲間と気軽にプレーできる環境がないのです。ルールがあっても当然ですが90分走る体力がない下手くそでも10分でもプレーできるような仕組みができればサッカーを続けたい気持ちを持っている方が複数います。気軽に参加できるシステムを構築できれば40代50代でも現役を続ける方が増えるはず。指導者不足で解散する少年団が増えておりサッカーの衰退を危惧しております。指導者になったものの負担が大きく指導者の成り手も減少しております。ゴルフにハマっていくサッカー経験者も多いです。サッカーに留まれる環境の整備はJFAの取り組むべき課題ではないでしょうか。

40代男性

現在中学校の外部コーチをしています。高校の部活動でサッカーをやらない生徒、サッカー部の無い高校に進学する生徒、入部しても途中でやめてしまう生徒、高校卒業後にサッカーを続ける場所がない生徒と、どこかのチームに所属していないとサッカーを続けられる環境がありません。グラウンドも指導者も都会に比べ環境が整っていません。このようなサッカー過疎地を救っていただけることを切に願います。何年、何十年とかがかかってもサッカー文化を全国に広げていただきたいと思っています。

50代男性

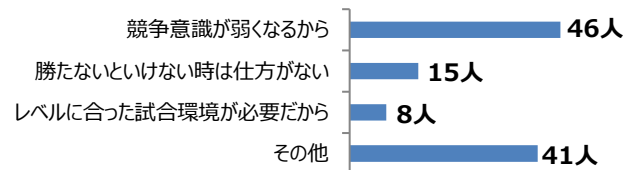
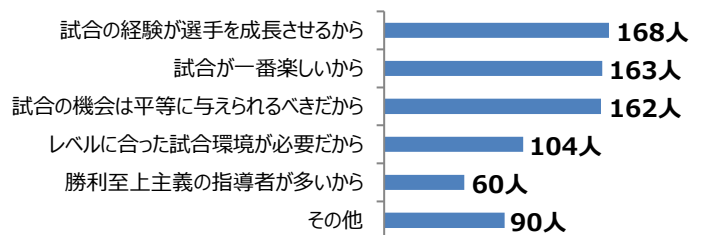
小学生年代のコーチをしていましたが、子供達が卒業してしまうと、どうしても競技が中心になってしまって、楽しんでやれる場がなくなってしまいます。女の子は特に、その上の年代で楽しんで続けていく場が極端に少なくなってしまいます。特に、小、中学生は、自分たちでその楽しむ場を用意することは難しく、どうしても大人や社会に頼らざるを得ないと思います。そういう意味ではJFAが楽しめる場づくりをリードして頂くことが、必要だと思います。この年代の子供達が楽しむスポーツ経験を得られれば、恐らく、その先の年代でも継続していこうという力になるのではないかと考えています。サッカー界の取組が、ひいては日本のスポーツ界にも良い影響を与えていくのではないかと考えています。

キーワード2：補欠ゼロ

サッカーをやっていて一番楽しいと思うのは試合です。近年は関係者の努力により、リーグ戦の整備が進み、試合の機会は増えていきます。しかし、多くの選手をかかえるチームでは、大会／リーグ等の公式戦に出場できない選手が多くなります。また、指導者の偏った勝利至上主義で試合に出場できない、指導者不足で複数のチームが編成できない、競技会に複数チームのエントリーができない、等出場できない理由は様々です。「万年補欠はしょうがない」ではなく、それぞれの選手のレベルに応じて、みんなが必ず試合を楽しめる環境や、試合の場を求めて選手が移籍することを悪いことと捉えるのではなく、プレーヤーズ・ファーストの観点で考えられるような環境となるよう、サポートしていきたいと考えています。

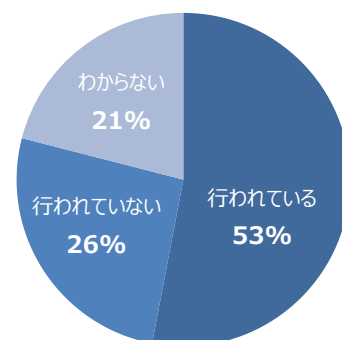
このような考え方に賛同しますか？

賛同する	1,283人	85%
試合の経験が選手を成長させるから	168人	
試合が一番楽しいから	163人	
試合の機会は平等に与えられるべきだから	162人	
レベルに合った試合環境が必要だから	104人	
勝利至上主義の指導者が多いから	60人	
その他	90人	
(未回答)	536人	
賛同しない	53人	4%
強くなるにはチーム内の競争が必要だから	9人	
その他	25人	
(未回答)	19人	
どちらでもない	171人	11%
競争意識が弱くなるから	46人	
勝たないといけない時は仕方がない	15人	
レベルに合った試合環境が必要だから	8人	
その他	41人	
(未回答)	61人	

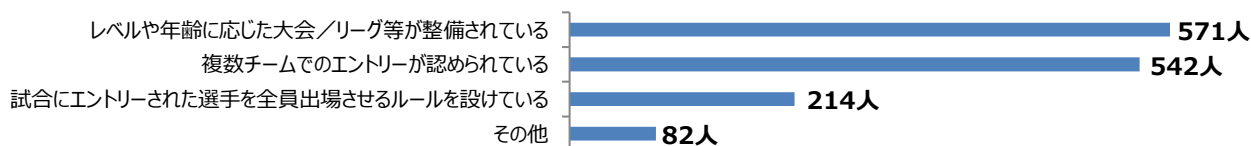


補欠ゼロの取り組みがあなたのまわりで行われていますか？

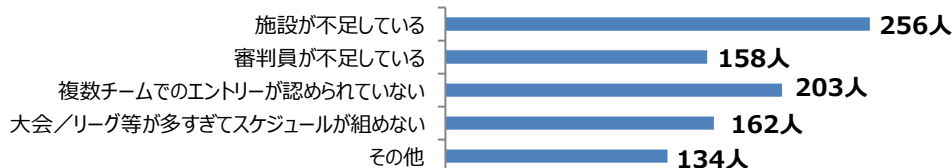
行われている	824人	53%
行われていない	399人	26%
わからない	323人	21%



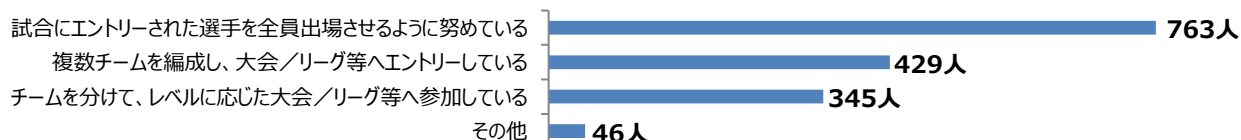
行われている場合は、その内容を教えてください。(大会/リーグに関して)



行われていない場合は、その理由がわかれば教えてください。(大会/リーグ等に関して)



行われている場合は、その内容を教えてください。(チームに関して)



行われていない場合は、その理由がわかれば教えてください。(チームに関して)



「補欠ゼロ」の考えに「賛同する」は 85%でした。賛同の主な理由は、「試合経験が選手を一番成長させるから」、「試合が一番楽しいから」、「試合の機会は誰にも平等に与えられるべきだから」、「レベルに合った試合環境が必要だから」という内容が大半を占め、「勝利至上主義の指導者が多いから」という主旨の回答も多くありました。

「どちらでもない」と答えた方は 11%で、他のテーマと比べてその比率が高くなりました。その理由は、みんなが試合に出ることは大事と思っはいるものの「競争意識が弱くなるから」、「勝たないといけない時は仕方がない」という主旨の回答が大半でした。「賛同しない」は 4%で、主な理由は「強くなるにはチーム内の競争が必要だから」が多く、「チーム力が落ちるから」という回答もありました。ご意見には、施設不足や指導者意識を改善することが重要であるという内容が多くありました。

ご意見・ご提案から

40代男性

試合はあくまでも練習の成果を試し確認する場所です。試合に出ない選手を作ること自体に意味がありません。試合に出れない選手自体を作っている指導者とクラブの運営活動方針や内容、取り組み方に問題があるのであって、試合に勝つことだけが目的ではないからです。補欠という言葉そのものに違和感を感じます。日本社会の根本的な問題だと思います。つまり、日本の取り組み方そのものが学校教育の体育であってスポーツではないということです。私の運営するクラブは、スポーツクラブであって、大会での勝利や優勝を目的とするクラブではありませんので、よほどの理由がない限り選手全員が必ず試合に出場して活躍することを目的としています。

30代男性

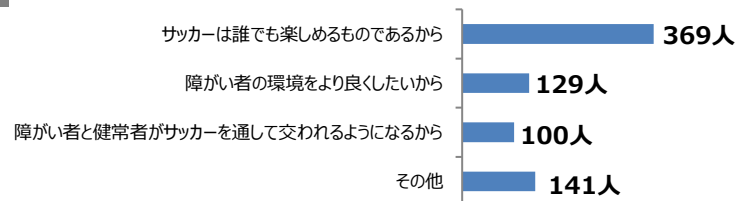
勝利至上主義のサッカーが周りに多過ぎる。またクラブやチーム以上に関わる親が勝利至上主義である場合が多い。「育てる」という概念が抜け落ちていて、指導する側も勝たなければならないという感じが伝わってくる。またリーグ戦の整備が降昇格を生み、育成の弊害にならないか心配。指導方法として結果が出たら一軍へ上げてやる、U-12へ昇格させるなど。大人が小学生年代にまで結果を求めることがあまりに多い。子どものモチベーションを上げるためとはいえ聞かえはいいが、こういう場合は結果が出なかったときのケアをしているか疑わしい。子ども達の気持ちの芽を摘み取ってしまっていないか非常に心配。指導側だけでなく親や子ども達にも徹底すべき。

キーワード3：障がい者サッカー

JFAは2015年4月、次の7つの障がい者サッカー団体
日本アンパティサッカー協会、日本ソーシャルフットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、
日本脳性麻痺7人制サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ろう者サッカー協会と共に、障がい者サッカー協議会を設
置しました。今後は、障がい者サッカーを統括する連盟の設立や障がい者サッカーの普及・発展をサポートすることにより、サッカー
を通じて障がい者も健常者も普通に交わる社会の実現を目指します。

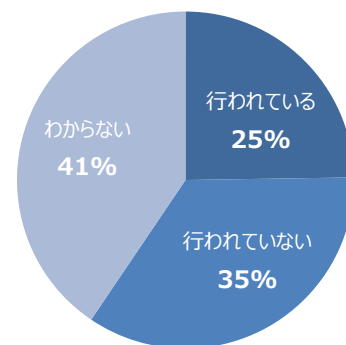
このような考え方に賛同しますか？

賛同する	1,445人	96%
サッカーは誰でも楽しめるものであるから	369人	
障がい者の環境をより良くしたいから	129人	
障がい者と健常者がサッカーを通して 交われるようになるから	100人	
その他	141人	
(未回答)	706人	
賛同しない	11人	1%
「障がい者」ということで分ける必要がないから	5人	
その他	3人	
(未回答)	3人	
どちらでもない	51人	3%



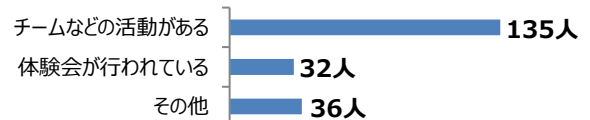
あなたのまわりで障がい者サッカーの取り組みが行われていますか？

行われている	373人	25%
行われていない	523人	35%
わからない	611人	41%



行われている場合、その内容を教えてください。

チームなどの活動がある	135人
体験会が行われている	32人
その他	36人



「障がい者サッカー」の考えに「賛同する」は96%でした。主な理由は、「サッカーは誰にでも楽しめるものである」、「障がい者の環境をより良くしたいから」、「障がい者と健常者がサッカーを通して交われるようになるから」という内容が大半を占めました。「どちらでもない」は3%で、その理由は「よく分からないから」という主旨の回答が大半でした。「賛同しない」は1%でしたが、理由は「『障がい者』ということで分けるべきではない」、「健常者の環境が整っていないのに障がい者が二の舞いになってしまう。支援者が増えないと成功しない。」という主旨の回答がありました。

障がい者サッカーの活動については「行われていない」が35%、「分からない」が41%でした。サッカー関係者に障がい者サッカーの情報があまり届けられていないと思われます。

30代男性

自分は統合失調という病気で精神障害者です（精神保健福祉手帳を持っています）。しかし、フットサルに出会い、フットサルを通して前向きになりました。特に「ボールを取られたら、取り返せばいい。点を取られても、取り返せばいい。仕事でもそうだよ」とコーチから言われたときに目から鱗でした。今でも月に一度 F リーグの選手に障害者フットサル教室としてコーチングしてもらっています。そしてこの前は、健常者である一般の人のチームに参加して、キーパーとしてリーグ戦に出場しました。試合前は憂鬱でしたが、試合になったら障害や健常は関係なく、後ろから声を出し、一対一になったら迷わず飛び出しました。試合後はどっと疲れましたが、それでも仕事だけは休みませんでした。フットサルをやる前は有給休暇を使い果たすほど、すぐ休んでいましたが、フットサルを始めてから、【根性】が付いたと実感しています。

20代女性

私自身、特別支援学校の教員をしており、障がいのある子どもたちと日々過ごしています。昨年度は本校においてサッカーチームの監督を任せていただき、一ヶ月程の短い期間でしたが、子どもたちとサッカーを通じて楽しい時間を過ごすことができました。感じた事は、子どもたちは障がいの有無に関わらず、スポーツを通じて子ども同士が繋がりが合えるということです。子どもたちの技術だけでなく、気持ちも育っていく姿を間近でみることができ、私はとても幸せな気持ちでした。ですが課題として、障がい者の多くは余暇を過ごす場を持っていません。経済面、精神面、移動手段の有無、家庭の問題や身体的な問題、理由は様々ですが、自力で参加する事が難しい者が多く存在するということも十分に配慮していただきたいです。障がいのある人がサッカーを楽しめる場が増えれば、私は教師として、子どもたちに自信を持って勧めたいです。そして、1 人の人間として、共に楽しむことができれば幸せです。

40代男性

アンブティーサッカーの、厚木のチームと交流しています。初めて、自チームの選手に見せた時は、確かに戸惑いや違う見方をしていましたが、小学生の選手も、今では、サッカーを楽しむ同じ仲間、ただ！それだけです。一つのボールを蹴る仲間、と、思っているだけです。周りの大人達が、障害者スポーツの環境に対して、大きな壁を作っている気がします。マスコミや、協会が今まで以上に公開して、障害者と健常者の壁を無くす必要が、有ると思う。

40代男性

障害があってもサッカーはできます。私が関わった 4 種チームでは養護学校の体育館でフットサルを行っていますが、チーム関係者だけでなく学校関係者も参加する形にしています。こうすることでより障害者への理解も進み、共にサッカーを楽しむことが出来ます。

40代男性

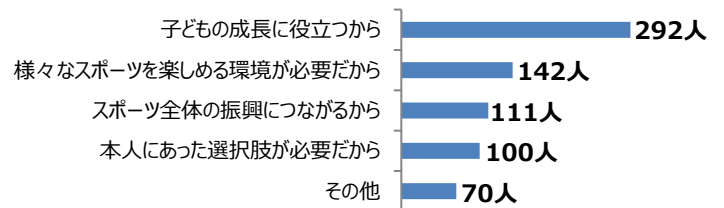
可能な限り他の子供と同じように扱っています。ただし、どうしてもできない場合は別メニューをさせています。それを保護者の方にも了解いただいています。大人が特別扱いをしてしまうと、他の子供たちも特別扱いをするようになるので、できるだけ同じように扱うように心がけています。チーム内は平等であることが絶対条件です。

キーワード4：他スポーツとの協働

幼少期は、サッカーだけでなく、他のスポーツや遊び、社会的な活動など、様々なことを経験することによって、豊かな感性・創造性・自主性などが育まれていくと考えています。サッカーが好きでサッカーだけ続けるのは本人の自由ですが、他のスポーツなどを選択するのもまた自由です。本人の個性や特徴が活かせる選択肢が少しでも多く持てる環境があれば、楽しくスポーツを続けることができるのではないのでしょうか。また、サッカーの環境だけが充実すれば良いという考え方ではなく、他のスポーツ団体と協働し、より多くの人達がスポーツを継続して楽しめるようなスポーツ全体の環境整備に努めていきたいと考えています。

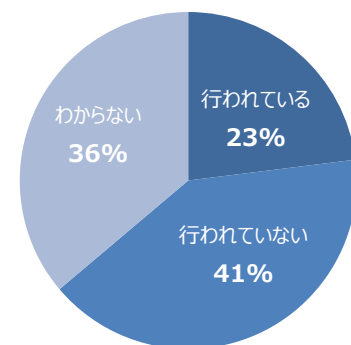
このような考え方に賛同しますか？

賛同する	1,399人	93%
子どもの成長に役立つから	292人	
様々なスポーツを楽しめる環境が必要だから	142人	
スポーツ全体の振興につながるから	111人	
本人にあった選択肢が必要だから	100人	
その他	70人	
(未回答)	684人	
賛同しない	16人	1%
どちらでもない	92人	6%



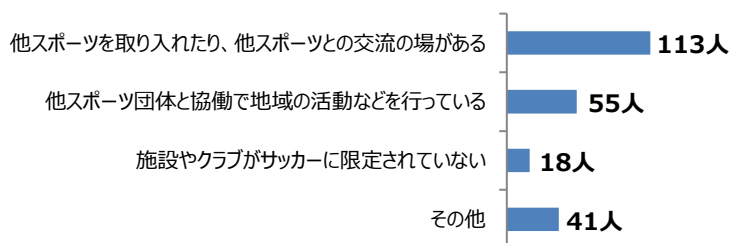
あなたのまわりで他スポーツとの協働の取り組みが行われていますか？

行われている	347人	23%
行われていない	615人	41%
わからない	545人	36%



行われている場合、その内容を教えてください。

他スポーツを取り入れたり、他スポーツとの交流の場がある	113人
他スポーツ団体と協働で地域の活動などを行っている	55人
施設やクラブがサッカーに限定されていない	18人
その他	41人
(未回答)	120人



「他スポーツとの協働」の考えに「賛同する」は93%でした。主な理由は、「子供の成長に役立つから」、「様々なスポーツが楽しめる環境が必要だから」、「スポーツ全体の振興につながるから」、「本人に合った選択肢が必要だから」という主旨の内容が大半を占めました。「どちらでもない」は6%、「賛同しない」は1%でした。その理由には「サッカーの環境整備が先だから」、「子供の取り合いになるから」、「サッカー協会が考えることではない」という主旨の回答がありました。

活動が行われているのは23%でした。活動内容については、チームの練習に他スポーツを取り入れたり、他スポーツ団体との交流イベントを行ったりしているところが多くありました。また他スポーツ団体と協働で地域貢献活動をしている団体は4%でした。

40代男性

欧米などのスポーツ先進国では、大学までは色々なスポーツを経験したり、オフシーズンに他競技を行うのが、当たり前となっている。日本も、一昔前は放課後に色々なスポーツや運動(外遊び)をしていたが、現在では、場所がないこと。ひとつの競技に特化しており、応用力が効かないこと。掛け持ちを良しとしない風潮が大半を占める。トップダウンで、環境と思考を変えていく必要はあると思う。

50代男性

私自身も様々なスポーツを経験しました。その経験がサッカーに役立つこともありました。色々なスポーツを経験することは、色々な人たちと接することにもつながります。こうした中で、色々な発見や自身の成長につながることもあります。ぜひ、取組みを推進していただければと思います。

30代男性

幼少期、少年期はサッカーだけでなく他の様々なスポーツをやるべきというのが自論です。例えば、武道をやらせるのも礼儀を教育する上で良いものと思います。ただ、最近の子供たちは土曜日が休みの学校が多いため授業が詰め込まれ、帰宅時間が遅くなり、そこからさらに習い事や塾などで自由な時間＝友達と遊ぶ時間が取れなくなっているように感じます。公園で遊んでいる子供を見ることも少なくなっています。本当のグラスルーツはチームや少年団でなく、公園や路地裏でボールを蹴る。そこからではないでしょうか。

30代男性

「スポーツ」×「○○」というテーマはそれぞれの競技が発展していく中で必要不可欠なものだと思います。プロスポーツクラブが地域との繋がりを密にしていたり、地域発展に貢献していたりすることはもちろんですが、何よりも総合スポーツクラブ（Sport Club, Athletic Club）の発展をサポートしていく必要があると強く感じます。

50代男性

日本人の悪癖である閉鎖性を撤廃することで、多くの才能が開花するチャンスが増える。ユースでは色々チャレンジして選手の可能性を探り、自分の希望する種目・コーチ等回りの大人の向き不向きの判断からその選手にとって適性がつかめる。スポーツ環境の改善で、スポーツクラブの存在は見過ごすことはできない。一つに特化するのもよし、色々やってみるのもスポーツを楽しむ醍醐味である。

40代女性

子供のうちは、心も体もどんどん成長するので、楽しく、さまざまな動きをすることで、その後の能力も高まると思います。本来は、遊びでそのようなことができればベストですが、今は、安全に思い切った遊びのできる環境が整っていません。スポーツがそれを補ってくれると期待しますが、一つのスポーツだと偏りがあつたり、また勝負にこだわりすぎて、心が荒んでしまうように思います。そのため、もっと、ほかのスポーツと協働して、からだを動かすことを楽しめば、からだもこころも成長して、広義的に、サッカーの能力も高まり、より一層、サッカーを楽しめると思います。

40代男性

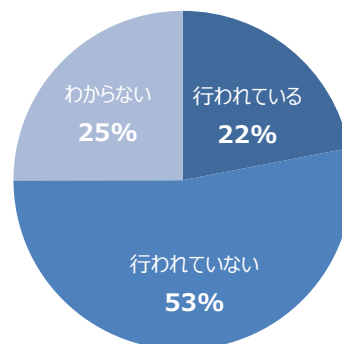
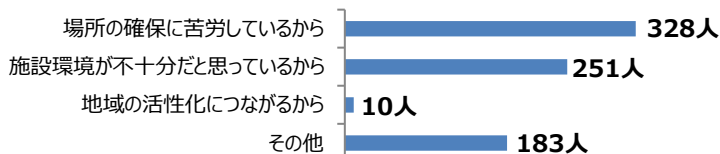
色々なスポーツを経験すると事で、豊かな感性をもった人間形成にとてもプラスになると感じています。ひとつのスポーツだけに偏ってしまうと、もしそのスポーツで挫折した場合にスポーツ自体を辞めてしまう可能性もあります。特に育成年代では色々なスポーツに触れ自分が向いているもの、好きなものが分かるし、例えばその後サッカーに戻ったとしてもサッカーのプレー時にきつとその経験が役に立つと思っています。

キーワード5：施設の確保

サッカーに関わる様々な活動を行うためには、施設を確保することが最重要課題です。施設が不足している地域では、施設の取り合いで、チーム同士の関係が悪化しているところもあります。そのような状況から脱却するために、「施設を借りる」というだけでなく「施設を造る」という取り組みが必要だと考えています。遊休地、廃校、休耕田、空き倉庫、ゴルフ場空きスペース等の利活用やPFI方式(自治体の土地を利用し民間が施設を造る)等による施設づくり、各種助成制度を活用した場所の確保など、自由に使える施設を、チームやクラブが自分達で整備していけるようにサポートしたいと考えています。

このような考え方に賛同しますか？

賛同する	1,446人	96%
場所の確保に苦労しているから	328人	
施設環境が不十分だと思っているから	251人	
地域の活性化につながるから	10人	
その他	183人	
(未回答)	674人	
賛同しない	11人	1%
どちらでもない	50人	3%

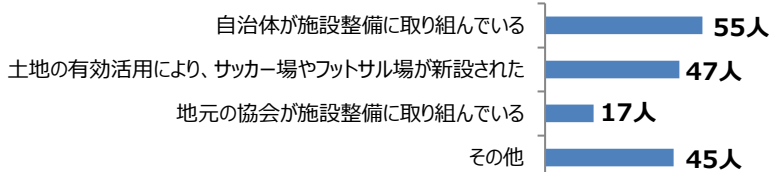


あなたのまわりで施設の確保の取り組みが行われていますか？

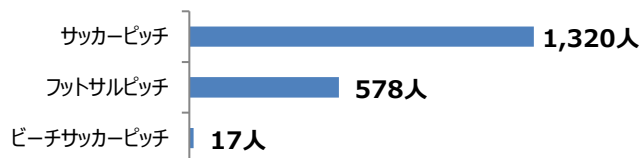
行われている	331人	22%
行われていない	799人	53%
わからない	377人	25%

行われている場合、その内容を教えてください。

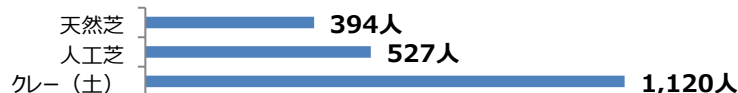
自治体が施設整備に取り組んでいる	55人
土地の有効活用により、サッカー場やフットサル場が新設された	47人
地元の協会が施設整備に取り組んでいる	17人
その他	45人
(未回答)	167人



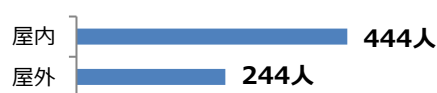
普段活動しているピッチ（複数回答可）



<サッカー>



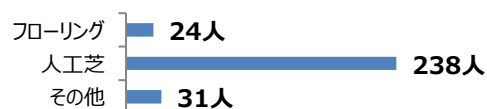
<フットサル>



<フットサル/屋内>



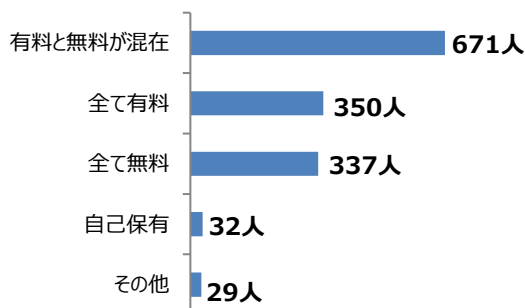
<フットサル/屋外>



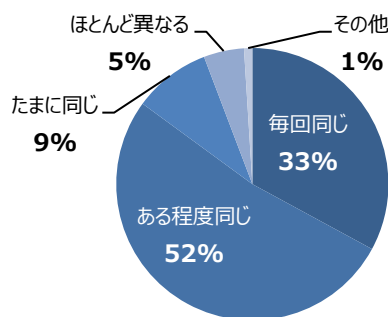
<ビーチサッカー>



活動している施設が有料か無料か



活動は同じ施設でできているか



「施設の確保」の考えに「賛同する」は 96%でした。主な理由は、「場所の確保に苦労しているから」、「施設環境が不十分だと思っているから」という主旨の内容が大半を占めました。「どちらでもない」は 3%、「賛同しない」は 1%でした。その主な理由は「施設設置には費用がかかり現実的ではない」、「行政が行うべきもの」という回答でした。

施設に関しては、切実かつ厳しい意見が非常に多くありました。多くのチーム関係者が施設の確保に苦労していることが読み取れました。公共施設の取り合い、進まぬ学校開放、リーグ参加のための施設の確保、ピッチ使用における新設チームの排除、民間施設の高額な使用料等、地域によって状況は様々でした。

「施設を造る」という考えには賛同するものの、現実的には金銭面が解消されない限り困難なため、それに対するクラブレベルへのサポートを求める意見も多くありました。

普段活動している施設について、「有料と無料が混在」が約半数を占め、「全て有料」は約 25%、「全て無料」も約 25%で「自己保有」は 2%でした。

「活動が同じ施設でできているか」の問いについては、「毎回同じ」が 33%、「ある程度同じ」が 52%でしたが、賛同理由の「場所の確保に苦労しているから」、「施設環境が不十分だと思っているから」という回答が約 40%あり、他テーマでも施設不足に関する意見が多くあったことを考えると、特に都市部においては、現状を維持するための施設確保が精一杯で、現状以上の活動のために施設を確保することは非常に困難であることが分かります。

ご意見・ご提案から

30代男性

サッカーをしている人口に対して明らかにサッカーをする施設が少ないと思います。県外にできれば遊休地、廃校、休耕田、空き倉庫、ゴルフ場空きスペース等を利用してグラウンド施設を作れると思いますが、実際都内だと難しいのではないかと考えています。また現状、少年団や中学でプレーする選手が減りクラブチームでプレーする選手が多くなったのも原因だと思います。年々クラブチームも増え続け、少し前まではグラウンドがなくてもクラブチームが活動できていました。ジュニアやジュニアユースが増えた事により、施設が足りなくなってきたのも事実だと思います。私もクラブチームでジュニアユースの指導者をしているので、グラウンド施設の確保だったり、グラウンド施設を作ったりできるようになれば、子供たちのためにもいいと思うので賛同させていただきました。

30代男性

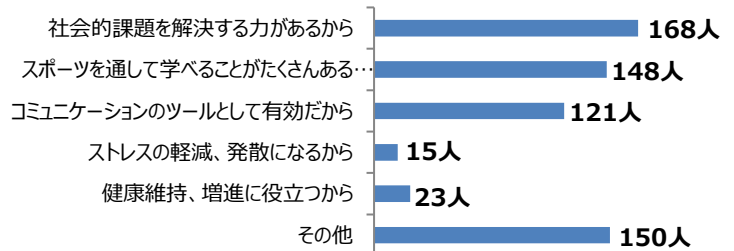
これに関しては直ぐにでも行政等に対してサッカー協会からも強く働きかけてほしい。現に活動地域では施設の不足が深刻です。毎月の公共施設の抽選も通らないことも多く、安定した活動ができていません。また公共施設の増設、増枠には行政の消極的な姿勢が否めません。たとえば、公共施設の管理についても、週末のグラウンドを午前、午後の 2 枠だけで管理しているのがほとんどで、普通のチームは 4 時間も使用しないため、残りの 2 時間はグラウンドが空いているのに誰も使用できない状況で勿体ないです。また、グラウンドも全面使用のみの予約で半面使用枠を作らないために、これを 10 名足らずで使用するチームもあり有効な活用ができていません。また、週末のグラウンドを全てリーグ等で独占するため、競技志向でないスポーツ愛好家の人たちが団体で安くスポーツを楽しむ場所がありません。そのような人たちがスポーツをする場は民間施設のフットサル場を利用するなどしか方法がなく、せめて週末にも 2 時間ほどそのような人向けの枠があってもよいのではと思います。スポーツの場は競技志向の方たちだけの物ではないので。また、学校施設も利用が開かれているとはいえません。

キーワード6：社会的課題への取り組み

私達の住んでいる地域には、それぞれに社会的な課題が存在します。いじめ、不登校、ひきこもり、自殺、ゲーム依存、児童虐待、待機児童、過疎化、少子高齢化など、その課題は様々です。スポーツにはそういった課題を減少させたり緩和できる力があると考えています。サッカーやスポーツを通じて、それらの課題解決に取り組むことによって、少しでも社会が明るくなれば、社会におけるスポーツの価値も高まります。その結果、より多くの賛同者や協力者が集まり、より良い活動に繋げて行くことができるのではないかと思います。このような地域社会のための活動をサポートしていきたいと考えています。

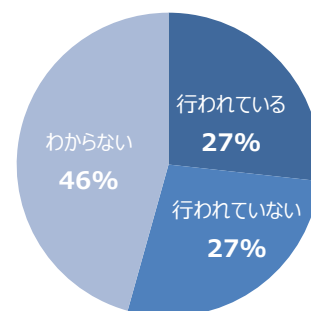
このような考え方に賛同しますか？

賛同する	1419人	94%
社会的課題を解決する力があるから	168人	
スポーツを通して学べるのがたくさんあるから	148人	
コミュニケーションのツールとして有効だから	121人	
ストレスの軽減、発散になるから	15人	
健康維持、増進に役立つから	23人	
その他	150人	
(未回答)	794人	
賛同しない	14人	1%
どこまでできるのか疑問を持っているから	4人	
どこまで活動すべきか判断が難しい	2人	
その他	4人	
(未回答)	4人	
どちらでもない	74人	5%
どこまでできるのか疑問を持っているから	9人	
サッカーだけでは解決できないものがあるから	7人	
どこまで活動すべきか判断が難しい	2人	
その他	9人	
(未回答)	47人	



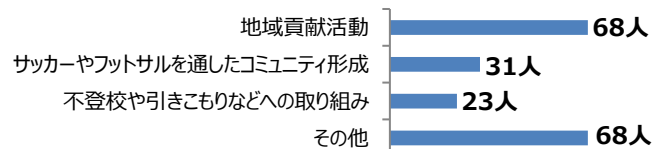
あなたのまわりで社会的課題への取り組みが行われていますか？

行われている	403人	27%
行われていない	416人	28%
わからない	688人	46%



行われている場合、その内容を教えてください。

地域貢献活動	68人
サッカーやフットサルを通じたコミュニティ形成	31人
不登校や引きこもりなどへの取り組み	23人
その他	68人
(未回答)	213人



「社会的課題への取り組み」の考えに「賛同する」は94%でした。主な理由は「社会的課題を解決する力があるから」、「スポーツを通じて学べるのがたくさんあるから」、「コミュニケーションのツールとして有効だから」という主旨の内容が多かったです。「どちらでもない」は5%、「賛同しない」は1%でした。その理由として「どこまでできるのか疑問を持っているから」、「軽々しく関わるべきではない」という回答がありました。

活動が行われていると回答された方は27%で、地域貢献や不登校や引きこもり等への取り組みを行っている団体もありました。賛同者の多くは、地域においてスポーツ活動を行うこと自体が社会的課題を解決する一助となると考えており、スポーツを通じてより良い社会づくりに貢献したいと思っています。また、サッカーの技術指導だけでなく、オフ・ザ・ピッチにおける教育の重要性を感じている指導者も多いことが分かりました。

ご意見・ご提案から

30代男性

活動を通じてそのような力がスポーツにはあると感じています。実際に不登校や社会に馴染めない子供もサッカー教室には休まずに毎日来てくれたりしていますし、そこからまた復学した子供たちもいます。

30代男性

習い事をするのが当たり前の世の中となり、家の回りでさえも遊ぶことが制限され、危険を感じるが多くなってきております。しかし、これは、単に危険があるのではなく、危険を回避する術が乏しくなっているようにも感じます。それは、コミュニティが形成されていないことに問題があると思います。サッカーに限らず、同じスポーツをする仲間がいるということは、それだけでネットワークが生まれ、大人と子供の関係、子供同士の関係、大人同士の関係が簡素になっていることが大きな原因であり、また他人の子供を教育することができない大人が増えてきています。スポーツチーム、クラブに所属することで、一つのコミュニティが生まれ、また、そういった組織が、自ら地域社会に出て、その輪を広げる活動が「現代病」「現代事件」を未然に防ぐことになると思っています。

20代女性

サッカーやスポーツを通して仲間の大切さ協力性などが学べると考えます。なのでこのような考えには賛同しますが、能力の差から子供は、いじめなどに発展する場合があります。なのでそのようなことがないためには指導者の能力が必要だと思います。能力の低い子をどう伸ばしていくのかも大切だとは思いますが、それよりも、能力のある子をうまく活用していくことが大切だと思います。例えば、能力のある子が教えることにより、コミュニケーションがとれ、仲間と教え合う大切さや、わからない子の気持ちを理解したり、お互いを理解しあえることができると思います。なので、スポーツの良い力を教えるためにはしっかりと、仲間との協力や大切さを教えることが大切だとも思います。

40代男性

私の関わるクラブに数名の片親の子供がいます。経済的な問題や、生活時間の乱れ、万引きなど、諸問題を抱えている子供がいますが、そういった子供たちが一生懸命に好きなことに打ち込める環境を整えていくことが必要です。またいろいろな大人がそういう子供たちに関わることで、更生する手がかりとなったりするのではないかと思います。

40代男性

精神障がい者フットサルを通じて思うのはチーム内での仲間作りはもちろん、ゲームを通じて他のチームと仲良くなり自主的な交流が自然に行われることです。また、徐々に運営を障がい当事者に任すことで他者との交渉などの社会性や協調性を増し、自分に自信が持てるようになります。今まで精神障がい者は、医療関係者にとっては「保護すべき人」、当事者にとっては「私は病気だから何もできない」といった偏見があるように思われます。スポーツだから失敗して当たり前、むしろいっぱい失敗しようという姿勢が社会参加に結びついていくのだと思います。そしてそれが失敗を許容する社会につながればいいと考えます。

その他のご意見（抜粋）

40代男性

とにかく、子供が自由にボール遊びができる場が必要。集団で楽しくボール遊びができると、1人でゲームをやるより面白いはず。子供が楽しく遊べる場を大人が子供達から取り上げているのだから、ゲームばかりやるのは当たり前。これは大人の責任だと思う。また、子供達だけで遊ぶことにより、大人から与えられるだけではなく、自分たちでルールを決めたり、新しいことにチャレンジしたりといった能力が育つ。子供のころに自由に遊ぶことを抑制されていたら、大人しい若者になるのは当たり前。これも大人の責任だと思う。ぜひとも、自由にボール遊びができる公園を全国に広げる取り組みをしていただければありがたいです。

60代男性

指導者によっては、未だに「勝利至上主義」にこだわって、個人のスキルより組織プレーを、選手自身に考えさせるより、大人の考えを押し付けるという指導をしている人が多くいます。同じクラブの中でも指導方針や方法にばらつきがあるのが現状です。それを解消するため、JFAからグラスルーツ指導者への働きかけがまだまだ不足していると感じています。指導者資格の講習を受けた人でさえ、クラブに帰れば今までと変わらない指導をしているという現状を認識していただきたいと感じます。選手に対しては『トレセン』があり、質の高い指導が行われるようになりましたが、同様に、各地域での指導者講習を、高頻度で実施する等の対策があってもいいのではないのでしょうか。

30代男性

JFAが取り組もうとしている事には賛同致しますが、それが各市町村のサッカー協会まで具体的に伝わって、またそれを実行するための障害を取り除く必要があると思います。リーグ戦の導入などは、サッカー協会レベルではなく、すでに各チーム単位ですっと前から取り組まれていたりしています。結果的には、町クラブは、JFAでは無く、所属している地域のサッカー協会が何をしてくれるのかを期待していますが、これまでもJFAが唱えている取り組みに対しての具体的なアクションが非常に乏しい気がしていますので、提唱するだけでなく、これまで提唱してきた事が、現場ではどう取り組まれていたのかを十分に検証し、提唱プラス具体的なアクションも実行力を持って頂けると現場の皆さんも生き生きと活動できると思います。

30代男性

6テーマすべて大切なものだと思います。積極的な活動、セミナー開催などを期待しております。特に活動場所の確保は私たちのような首都圏で活動しているものにとって非常に重要なテーマです。環境の維持、保全等は我々指導者の使命でもあると思いますが、なかなか一人一人では活動場所を創ることは困難です。是非、JFA主導のもと、展開して頂けたらと思います。それにより、様々なリーグ戦の開設、社会活動等道が拓けるのではないかと思います。

30代男性

スポーツ（サッカー）がもっと開かれた存在になる為には、地域の方々が集う場所にする必要がある。何かの為に集まるのではなく、そこに行けば楽しい、面白い、と感じれる何かが必要で、それは、人との出会いではないでしょうか。ただ単に、スポーツをする場、ではなく、カフェやバーのように、仲間とそこにいて、スポーツをするもよし、ただたんにお茶したり、話したりするような、気軽に立ち寄れて、楽しく感じれる時間を過ごせる場として、一つのコンテンツとしてのスポーツと言う立ち位置もあるかと思います。地域の老人が、子どものサッカーを見ながら、お茶を飲みながら友達と談笑し、保護者もそこに交わって、いろいろ話をする事で、地域社会のハブとしての可能性を秘めていると思います。

50代男性

スポーツ特区を作って、スポーツをモチーフに社会問題に取り組む事業を行ってほしい。一つは、健康増進を図るために、全世代で学校で行うような運動能力テスト/体力テストを行い、統計情報を整備する事業を行ってほしい。そこから、各世代なり、各種競技従事者なり、指標を持つようにすれば、個人レベルにある種の目標を提示することができ、健康増進の一環で住民皆スポーツ社会が実現し、社会問題に色々な形で取り組めるのではないかなと思う。

おわりに

6つのテーマの考え方については概ねご賛同をいただき、激励やご協力の言葉も多くいただきました。一方で「考え方には賛同するが具体策が見えない。」というご意見やJFAに対する厳しいご意見もございました。故に、多くの方々から真に賛同を得るためには、今後の具体的な施策が非常に重要であると考えています。

今回のアンケートの回答者は、小学生年代の指導者や関係者の方が半数を占め、地域は東京、神奈川などの都市部の方々が多かったため、それらの方々の状況が強く反映されたものになりました。アンケートのご回答から、グラスルーツ推進における大きな課題として「施設不足」が挙げられます。公園などではボールの使用を禁止するところが多くなり、学校においても休み時間のボール使用を禁止するところもあるなど、ボールを蹴ったり投げたりする場所が昔に比べて少なくなっています。「施設不足」は単に数だけの問題ではなく、質や機能も含まれます。競技するピッチだけでなく、応援する人達への配慮や、障がい者スポーツの利用など、関わる様々な人達が安心・安全に利用できるユニバーサルなデザインが求められています。また、「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」などのそれぞれの取り組みにおいても「施設不足」という環境問題がネックとなっています。リーグ戦導入により試合数は増えていますが、それを十分に吸収できるほど施設は増えていません。よって今後もさらに注力していかなければならない課題であると考えています。

これまで、サッカーのようなオリンピック種目は、「競技スポーツ」という枠の中で「競技力向上」を主な目的に活動が行われて来ています。しかし、スポーツをもっと社会に役立つものにしていくためには、世界に勝つことだけでなく、地域における「生涯スポーツ」としての役割も追求して行かなければならないと思います。アンケートでの「引退なし」を賛同する理由に「サッカーは生涯スポーツだから」という回答がとても多くありました。そのように思っている、実際はサッカーをやめなければならない現実があります。それを当たり前とせず、それぞれの人達の生活圏内で、子供からお年寄りまで継続してサッカーやスポーツを気軽に楽しめる環境づくりが、スポーツを通じた豊かな地域社会の実現に繋がると考えています。これについては“生涯にわたって継続できるクラブ（生涯スポーツクラブ）”を推進する方法を中心に考えていきたいと思っています。

JFAは今後も地域の声に耳を傾け、様々なご意見を真摯に受け止め、グラスルーツの現場で求められていることに応えて行かなければならないと考えています。サッカーを愛する多くの方々のパワーが結集され、サッカーやスポーツを通じた豊かな地域社会や地域の楽しいコミュニティづくりの一助となるように努めてまいりますので、今後共にご協力の程、よろしくお願い致します。

公益財団法人日本サッカー協会 グラスルーツ推進部

<ご意見・ご提案集（抜粋）>

キーワード 1

引退なし

引退なし：【賛同する】理由（抜粋）

40代男性

私は小学生からサッカーを初めて社会人でサッカーを続けていましたが30代になり仕事優先の立場になるとサッカーをする機会を奪われました。40代になり選手としてサッカーに関わりたと思ったのですがチームに入る人脈がなくたまたま指導者を探している少年団から声がかかり再びサッカーと接する事ができましたが自分自身プレーをしたいという気持ちを押しさえられません。自分の年齢に近い仲間と気軽にプレーできる環境がないのです。ルールがあって当然ですが90分走る体力がない下手くそでも10分でもプレーできるような仕組みができればサッカーを続けたい気持ちを持っている方が複数います。気軽に参加できるシステムを構築できれば40代50代でも現役を続ける方が増えるはずです。指導者不足で解散する少年団が増えておりサッカーの衰退を危惧しております。指導者になったものの負担が大きく指導者の成り手も減少しております。ゴルフにハマっていくサッカー経験者も多いです。サッカーに留まれる環境の整備はJFAの取り組むべき課題ではないでしょうか。

40代男性

現在中学校の外部コーチをしています。高校の部活動でサッカーをやらない生徒、サッカー部の無い高校に進学する生徒、入部しても途中でやめてしまう生徒、高校卒業後にサッカーを続ける場所がない生徒と、どこかのチームに所属していないとサッカーを続けられる環境がありません。グラウンドも指導者も都会に比べ環境が整っていません。このようなサッカー過疎地を救っていただくことを切に願います。何年、何十年とかがかかってもサッカー文化を全国に広げていただきたいと思います。

50代男性

小学生年代のコーチをしていましたが、子供達が卒業してしまうと、どうしても競技が中心になってしまっていて、楽しんでやれる場がなくなってしまいます。女の子は特に、その上の年代で楽しんで続けていく場が極端に少なくなってしまいます。特に、小、中学生は、自分たちでその楽しむ場を用意することは難しく、どうしても大人や社会に頼らざるを得ないと思います。そういう意味ではJFAが楽しめる場づくりをリードして頂くことが、必要だと思います。この年代の子供達が楽しむスポーツ経験を得られれば、恐らく、その先の年代でも継続していきこうという力になるのではないかと考えています。サッカー界の取組が、ひいては日本のスポーツ界にも良い影響を与えていくのではないかと考えています。

40代男性

本来、サッカー（スポーツ）は、楽しむものであり、その楽しむことに期限をつくることは、できないと思います。現状、競技としての年代が終わると、特定の選手を除いては、普通の家庭を持ち、夢や経験を子供たちに託したり、関わり方を変えてしまいます。実際は、環境さえ整えば、指導や応援だけではなく、自らが志向は変わっても選手としてボールを蹴り、楽しみたい気持ちは、必ずみんなが持っていることと思います。1人集まらなくても、フットサルやソサイチなどやり方はあります。今、大事なことは、「サッカーが安易にできる場所の提供」、「同志が集まれる、コミュニティーづくりの手助け」が、重要であると思います。先の場所に関しては、行政を巻き込んだ施設づくりだけではなく、今、すでにある、民間施設の利用がない休閑地時間を、企業側が積極的に開放する地域ごとの土壌づくりが必要ですね。JFAと民間施設との取組により、企業側にもメリットと思われる、お金ではない、コミュニティーサイトなら、安心して仲間づくりができ、まさにWIN&WINな流れができると思います。ロイヤリティー・付加価値が創造できれば、新しい仕組み、できそうに思います。また、コミュニティーづくりの手助けにおいても、SNSの有効利用やJFAが管理する仲間をつくるサイトを新設して、地域ごとに登録して、伝言掲示板のように、開催告知・参加数など、地域ごとに管理人の選出から行えば、JFA側は、サイト開設により、地域のコミュニティーの把握もでき、一般の参加者も、全員が個人情報を事前に登録することが出来ると思います。

60代男性

当クラブの近くの中学校にはサッカー部が無く、サッカーを続ける選手は遠くのクラブチームに入部するしか無い。親の負担が大きいのでサッカーを諦めて、中学校の他のスポーツクラブに入部しているのが現状です。中学校にはサッカー部を作って貰う様に掛け合っていますが、少子化の影響で生徒が少ない為、1つクラブを作ると1つクラブを廃部しなければならぬと言われて、サッカークラブを作って貰えません。(元々、野球の強い学校でしたが、部員が減っており、サッカー部が出来ると廃部になりそうです。)

40代男性

自分は、U-12の指導者をしています。中学時代には、女子サッカーの環境が少ないのが、現状です。しかも？技術が有り、セレクションを受けて、名の知れたチームに、入れれば、勝ち組で有り、入れなくて、部活や違うスポーツを選んだ子どもは、負け組の様に見られています。それは、クラブチームの活動が発展し過ぎている、今のサッカーの環境にも、問題が有ると思う。下手でもいい

い、楽しくサッカーをやり、勉強や他の部活と両立させて、生涯サッカーに努めて、選手が親となり、母となり、皆で、一つのボールを蹴る環境を維持するのも、指導者の仕事だと、思います。質問の意味に対して、正しい解答か、分かりませんが、この様に思います。

60代男性

現在66歳になりますが、サッカーを通じて世界が広がるばかりです。ややもすれば閉じこもってしまう年齢と思われるかもしれませんが、83歳でも見事なセンタリングをあげる大先輩もおられます。仲間が多ければ多いほど、楽しみも大きくなります。JFAにおかれましては、グラスルーツ先進国にならば、差別のない楽しいスポーツ環境の創出にご尽力をお願いしたいと切に祈ります。

30代男性

元々、サッカーが盛んな地域ではないため、サッカー活動の場といえば地元高校の部活動のみの状態が長く続いていました。そんな中で、13年前に市内唯一の小学生年代のチームを立ち上げました。しかしながら、中学生年代にはこれまでサッカー部がなく、過疎化・少子化が進んでいる半島先端部の地域のため、サッカー部を新たな部活動として創ることは非常に難しい現状です。また、市内の中学生年代の部活動はほぼ運動部活動であり、練習もほぼ毎日のため、校外活動のクラブチームとしての活動を模索しても実現の可能性は低いです。せっかく小学生年代でサッカーを始めても中学生年代にチームがないため、少なくともいったんは引退せざるを得ません。そして、中学校の部活動ではじめて他のスポーツに打ち込み、サッカー部がある高校生になっても、サッカーを選択しないケースも多々あります。小学生年代の指導をしていますが、このジレンマに悩むことがよくあります。

40代男性

JFAが唱えるグラスルーツや生涯現役の考え方をリスペクトする立場で、次の通りお答えします。小生は「引退なし」=4~1種登録時の現役活動に限定されるものではなく、年齢を重ね乍、ある時は後進の育成や自らが家族を持った時に家族みんなが何かサッカーに関わりながら、地域に属するチーム（プロ球団に囚われない）に時にはお金を落としたりサポートしていけるようなコミュニティが至る所で創造出来れば良いし、その為のサポートをしていけたらと考えています。現在、小生がサポートしている町クラブは少子化に悩んでいる自治体をベースに活動していますが、地域に課せられた課題やニーズを拝聴しながらサッカー+αの活動を展開し少子化に逆行する形で会員数を伸ばしています。プロ下部組織だから出来る事、都会の町クラブだから出来る事、小生達のように町から遠く離れたクラブだからこそ出来る事を具体化して地域に発信していきたいと考えています。やりますよ、地域の町クラブから!!

30代男性

小学校から中学校、中学校から高等学校への進学にあたり、自分が進学する学校にサッカー部が無いという現状がある。そのため、地域のクラブチームが受け皿になっているが、その選択肢が少ないということがあげられる。どの競技レベルの子どもでも継続するという選択肢を選ぶことができるように、様々なレベルのクラブチームが存在していくことが必要だと考える。そのためには、ハード面（グラウンド）の数が足りないと思う。JFAでも校庭の芝生化を進めてくださっており、今後もどんどん増やしていただきたい。

30代男性

私は小中高と競技経験がなく、社会人になってからサッカーの面白さ・素晴らしさを知りました。そこで、私のレベルにあった場所で、楽しみながらも熱くサッカーに取り組みたいと思っても、なかなか活動できる場所がありません。もっとオープンに、レベルにあったチームやリーグが多数存在し、誰でも気軽にサッカーに取り組める環境になって欲しいと切に願います。また、これは昨年度チームを卒団した女の子なのですが、やはり中学では続けられるチームが少ないということでサッカーをやめてしまいました。本当にもったいないなと思いました。私としては、生涯スポーツとしてサッカーに取り組みたいと考えています!!

引退なし：【どちらでもない】理由（抜粋）

40代男性

小学1年生からサッカーを始めて、その始めるきっかけは、個人それぞれで異なると思うが、育成年代において、サッカーがすべてという人生設計には疑問を感じる。いろんな興味を持たせて、スポーツであれば、いろんな種目に取り組んだうえで、最終的にサッカーを自らの判断で選択できる環境づくりが大切だと思うから。

30代男性

「引退なし」と言う言葉が、今回取り組もうとしている事に適した言葉では無いように思います。確かに、私の周辺ではサッカーを出

来るところが少ないです。空き地や公園は、昔はサッカーOK でしたが、今は禁止。いつもどうしてだろうかと思います。公園はみんなのものですが、そうであればルールもみんなで決めるべきで、一部の心配事だけが先回りして大人が勝手にルールを決める。もう少し、子供を含めた利用者と話し合えばと思います。話は逸れましたが、引退なしという言葉では、本当の趣旨が伝わらないような気がしております。

30代男性

中学校の指導においては、引退がひとつの区切り。最後の大会に向けて、気持ちを高めるためにも引退を意識させることも必要だと感じる。また、学校なのでいつまでも部活動をやらせるわけにはいかないという部分もある。ただ、入試の後にはOB戦を開催するなどして、サッカーと長く関わりあえるような取り組みをしている。現実、卒業生が大学生年代になり、今ではボランティアとしてコーチをしてくれている。

20代男性

実際に自分は、サッカーを続けたかったが引退するのが当たり前の流れにながされてしまったため、半分は賛同できる。しかし、選手としてではなく指導者としてサッカーにかかわっている現在は引退で良かったとも考える。引退がなければ指導者という道は考えていなかったし、指導者の数が少ない上にこれからも少なくなってしまうように思う。日本のサッカーの向上に繋がらないかもしれないため、残り半分は賛同できない。

引退なし：【賛同しない】理由（抜粋）

20代男性

数が多ければ良いというものでもないと思う。クラブの数が多すぎる為に、選手の取り合いになったり、選手の間にも序列関係や、選手の仲にも意味の無い優越感を持つ者がでている。気軽に楽しめる場作り自体には賛同するが、増えすぎるクラブチームには賛同しがたい。

30代男性

私は賛同しないにしましたが、なぜかという

①グラウンドがなかなか確保できない。

私は現在東京でジュニアユースの指導者をしています。東京ではクラブチームが100チーム近くありそれに対してグラウンドの施設が少ないと思っています。ジュニア、ジュニアユース、ユースと一貫した指導が望ましいですが、ホームグラウンドが一つしかない中で社会人、シニアまでいれてしまうと、とてもではありませんが、子供達のサッカーする環境が減ってしまうのではないかと思います。

サッカーファミリーを増やす、継続することはいいと思いますが、人数が増えていく一方その半面、人数だけ増えていってもサッカーができる環境も一緒に増やしていかないと、生涯にわたってサッカーを楽しめるクラブやいくつになっても気軽にサッカーを楽しめる場づくりはいつまでたってもできないのでは？と思っています。私は継続する前にもっとサッカーができる施設をたくさんつくっていただき環境を整えたいので、引退させないサポートをしていただけたらと思うので、今回は賛同しないにさせていただきます。

30代男性

本人がサッカーが好きであれば続けられる環境はあると感じている。サッカー協会がどうこのテーマについてサポートするのが良く分からない。確かに場所の問題はあるが、大事なことは良い指導者にめぐり会うこと(指導者の育成は必要)、良い仲間めぐり会うこと、あとは時間。

引退なし：活動事例（抜粋）

50代男性

キッズからシニアまで、男女でサッカーを楽しみ、チームで試合もしている。ラグビーなど他種目にも協力している。子供がプレーするだけでなく、保護者どうしが対戦するパパママ杯フットサルも主催。お父さん達もチーム結成し登録を目指す。

30代女性

自チームは20代～60代まで所属しており、引退は特にありません。他県の大会でもそういうチームがあるのを見る機会が多々あること、男性のシニア年代の方と合同練習をする機会があり、男性は生涯現役で80歳超えてもサッカーされているのを目にするので、引退がないことが当たり前の感覚であります。

30代男性

実際にうちのクラブではサッカーに「生涯コース」を設けて、誰もがサッカーを続けていける環境作りを目指しています。現に 40 代、50 代からのサッカーをしたいという体験希望者や入会者が意外とたくさんいます。また平均年齢 70 代のシニアクラスもあり毎週 20 名ほどが集まり練習を行っています。ただ、「生涯コース」にも経験者が増えてきたため、サッカー未経験者クラスも作りたいと考えています。実際に未経験者だけサッカーができますかという問い合わせも結構あります。

30 代男性

高校時代（筑波大学附属高等学校）のサッカー指導者からアマチュアに引退なしという指導をうけ、卒業生を中心とした社会人クラブを創設しております。下は大学生から上は 60 歳以上の方々がそれぞれのカテゴリーを作り活動しています。そして、様々なカテゴリーが一度に集うイベント等を開催し、年齢を重ねるにつれてスムーズに次のカテゴリーへうつっていくという雰囲気をつくりあげています。

20 代男性

私の通っていた高校のサッカー部には、その卒業生で構成されるサッカーチームが 30 代、40 代...と多世代にわたり存在し、社会人リーグなどに参入して活動している。一方、私が現在通っている大学には、体育会サッカー部の他にはフットサルサークルが一つあるだけである。大学の人数が他大学と比べて少ないということもあると思うが、「体育会でがつりやるのは嫌だけど、フットサルサークルでは物足りない」という人たちのための受け皿がないため、高校までサッカーを続けてきたにもかかわらず、サッカーを定期的にプレーすることを断念してしまっている人が多々見受けられる。大学近辺のサッカーチームやインカレサークル、社会人チームに入るという選択肢もあると思うが、勉強の忙しい大学に通いながら大学の外にあるチームでプレーするのは負担が大きいに思われる。大学は、サッカーをする上では十分恵まれた環境であると思うので、大学の施設を生かした地域や社会人のサッカーチームがあれば、このような人たちもアクセスが容易になるため、様々なプレー志向の人たちを受け入れることができ、サッカーを続けることができるようになると思う。

60 代男性

少なくとも私は生涯続けさせて貰える環境に身を置く事ができました。それは、四十雀リーグが発展して 50 雀、60 雀、70 雀、78 歳以上のプラチナロイヤル、と言うカテゴリーまで存在する大会に参加する事まで可能になりました。6 月 13、14 日に掛川小笠山公園で行われた『静岡県シニアサッカーフェスティバル in ECOPA 2015』におけるコンセプトはまさに『生涯現役』でした。サッカーどころ静岡の地力を感じる素晴らしい大会に参加し、今、また、こうして生涯スポーツへの取り組みにアンケート出来るのは、嬉しい限りです。是非、静岡の方々のお知恵を出していただければと思います。

40 代男性

保育園、小学校、中学校までは連携した指導体制をとっているが、高校になると地元にはサッカー部がある学校がないため、子供たちは地元を離れてサッカー部がある他の市町にいっている。それでもサッカーをあきらめて地元に残る子供がいるので、中学校のサッカー部OB会をつくり社会人チームを結成。地域で、社会人、高校生が入り混じってのリーグ戦（約 4 ヶ月の期間）を行うリーグ連盟を結成。オフの期間はカップ戦を年 2 回（5 月と 11 月に）開催。現在組織して 25 年がたちます。サッカーがしたくてもサッカー部がない学校に進学した子供たちは社会人チームに入り、社会人と一緒にサッカーを楽しみながら社会性も身につけています。近年シニアの部も創設し 65 才ぐらいまでの人が楽しんでます。県内でも唯一、高校生と社会人が一緒に楽しめるサッカー環境をつくっています。

引退なし：活動困難な理由（抜粋）

40 代男性

地方の少子化に伴って、小中高の統廃合が進み、部活動やクラブ活動の存続が困難になっています。当地域では、私設のクラブがいくつかありますが、保護者に経済的・時間的なゆとりがないとクラブでの継続が難しい状況です。実際に、U-6 でサッカーに触れても小学校にサッカー部がない。中学校のサッカー部が廃部。このことで、少人数でできるバスケットボールに移行する学校が増えていきます。

20 代男性

選手としては、年齢が上がるにつれ、サッカー以外のやるべきことが増えていく。すると必然的にサッカーに割ける時間やお金は減少する。クラブとしては、特に東京ではグラウンドがあまりに少なく、その確保だけでもかなりの労力とお金がかかり、クラブの運営に大きな負担がかかる。結果として「本気」の人以外はクラブに入らなくなり、それに伴う形で財政を圧迫されたクラブが消滅し、場が失わ

れていく。この現状で、「引退なし」など難しい。たまに集まってサークル的にサッカーを楽しもうにも、グラウンドがなく、また金銭的にも高額ゆえ、定期的な活動は困難。

30代男性

私の住んでいるところは、30年以上、ジュニアサッカーチームがありませんでした。当然中学に部活もなく、近隣市町村でサッカーしていた子供達は、中学に入学した段階で多くの子が引退となります。継続する子は僅かです。やりたくても周囲に環境が無い事が殆どです。大会に出るにも、指導者資格がどうか、登録がとか学年別でなど様々なハードルがあります。気軽に行きたいが、そういった面で継続でき無い場合があります。

30代男性

私の地域では、中学校、高校の部活は学校の授業の一環であるため、必ず何か一つを選ばなければいけない。そして、一度選んでしまうと簡単に変わることが出来ないため、サッカー以外を選んできると、その時点でほぼ引退である。それから部活でサッカーを選ぶには、運良くよい指導が出来る先生がいるときだけかもしれない。選手が一つのチームだけにしか登録できないため、選択できず、辞めてしまう選手も多い。

50代男性

市町村が広範囲にわたるため、ジュニアユース年代での女子チームが構成できにくいこと、男子でも中学校サッカー部、クラブチーム数が少ないためにジュニアユース年代での競技機会がなくなる。現在、県内地区(4市町村)のU-12女子スクールの指導をしています。地区内では女子の選手数は少なく各所属チームで男子の中で活動しており、ジュニアユースに上がるとほとんどの女子選手は中学校では他の競技へと転向してしまい、女子チームを立ち上げたとしても活動が成り立たない状況です。男子においても、ジュニアチームはほぼ小学校区にはあるが、中学校を含むジュニアユースチームの数が少なく、校区外通学してもサッカーを続ける選手は少ない。指導者数が少ないことも原因の一つとは思いますが、ジュニア年代でサッカーを辞める選手も少なくない。

40代男性

行われていない。その理由の一つとして、勝利至上主義の中では、特定の選手のみが、その価値観の変更ができず、それを押しつけることで、主導権を握り、特に健康保持増進が課題となる、シニアサッカーに負の影響を与え、引退を余儀なくされるケースもある。(たまたま得た能力で、たまたまエリートコースに乗った人が、サッカーを独占している点は、勝利を目指す選手育成の中で、もっと別の価値観の存在を学ぶ必要がある。多様な価値観の存在と遊びとの線引きができる人材をサッカーによって育成することが、公教育を補完することにつながり、公益法人としての役割を果たすことになる。) 行っている本人が書くのですが、引退に追い込まれる理由として、次のようなことが考えられます。環境がないこと、環境に関する情報が少ないこと、環境があっても、勝利至上主義に染まった人々が、その価値感を押し付けてくること、などで、チームを離れる人もいます。大きな問題ですが、余暇時間と労働時間との関係、も存在すると思います。(労使環境、有給休暇取得のさらなる促進)

どの年代になっても、そのレベルにおいても、今より上手になるための努力を続けられる(=健康増進の動機となる)、環境整備が必要です。さらに、若年層での指導者の勝利至上主義が、学校経営と相俟って、大規模なクラブを生み、実質、サッカーができずに、応援の練習部と化す高校や大学も存在します。実質的な引退です。

キーワード 2

補欠ゼロ

補欠ゼロ：【賛同する】理由（抜粋）

40代男性

試合はあくまでも練習の成果を試し確認する場所です。試合に出ない選手を作ること自体に意味がありません。試合に出れない選手自体を作っている指導者とクラブの運営活動方針や内容、取り組み方に問題があるのであって、試合に勝つことだけが目的ではないからです。補欠という言葉そのものに違和感を感じます。日本社会の根本的な問題だと思います。つまり、日本の取り組み方そのものが学校教育の体育であってスポーツではないということです。私の運営するクラブは、スポーツクラブであって、大会での勝利や優勝を目的とするクラブではありませんので、よほどの理由がない限り選手全員が必ず試合に出場して活躍することを目的としています。

30代男性

勝利至上主義のサッカーが周りに多過ぎる。またクラブやチーム以上に関わる親が勝利至上主義である場合が多い。「育てる」という概念が抜け落ちていて、指導する側も勝たなければならないという感じが伝わってくる。またリーグ戦の整備が降昇格を生み、育成の弊害にならないか心配。指導方法として結果が出たら一軍へ上げてやる、U-12へ昇格させるなど。大人が小学生年代にまで結果を求めることがあまりに多い。子どものモチベーションを上げるためといえば聞こえはいいが、こういう場合は結果が出なかったときのケアをしているか疑わしい。子ども達の気持ちの芽を摘み取ってしまっていないか非常に心配。指導側だけでなく親や子ども達にも徹底すべき。

50代男性

スポーツの楽しさはゲームである。苦しい練習もトレーニングもゲームのためならできなく、部員が多いからといって中学校や高校の部活で一部のベンチ入りする選手以外はゲームに参加できないなんて馬鹿げている。自分の子供がそんな環境にいることがすごく悲しくて、部活を辞めて自分がゲームに参加できるクラブに入るか個人スポーツを勧めたが、本人は学校での立場を考えて補欠のまま続けている。こんなことは本来のスポーツの楽しみではない。

40代男性

岩手県サッカー協会独自の発案により、数年前から、各地域ごとの主管でU10・U8を中心に補欠ゼロリーグを企画・運営している。地域のチームに所属している子供達を定期的集め、その日に集まったメンバーでチーム構成をして、クリニックをして、ゲームをする。私の地域では、合間に気になったところを当日の運営スタッフ間で話し合い、不足している部分をトレーニングをして、またゲームをする形式を導入している。参加している子供達は、他チーム、小学校の友達も出来て、それが地区トレセンでのコミュニケーションに活かされているように感じています。

20代男性

子供たちにとって何が一番楽しいのか、やはり試合。それを監督を筆頭に指導者全員が理解しています。少年団というのは勝ちにこだわるといよりも運動が苦手な子でもサッカーがやりたいという子もいます！そういう子でもサッカーができる環境が少年団のあり方なのではないかなと思います！

まあ実際にすごい問題があるんですけどね。

勝ちにこだわらないと今度は親が『なんで勝てないの？なんで試合に全員だすの？うまい子だけ出せばいいじゃん』という声も、なかなか難しいです。こう言うときは指導者はどうすべきなのでしょう？私は結構悩んでいます。子供たちが楽しんでほしいけど試合では勝てない。でも練習を厳しくしても運動が苦手な子がついていけないのか。その子にとってサッカーが嫌いになってしまうのではないかと、いろいろな悩みがたくさんあります。

30代男性

子どもたちには、「試合機会は均等にある。」と伝え、練習の出席回数やら何やらは全く関係なく、試合の日に出席していれば、必ず試合に出しています。「勝つこと」、「負けること」は子どもの「思いやりの心(他者を思う気持ち)」に大人からのメッセージを届かせるために必要な潤滑油のようなものと捉えています。負けることが多いチームの言い訳のように聞こえますが、そう受けとられてもよいと思っています。我がチームは、サッカーをやりたいとやっている子どもだけではなく、友達と過ごしたいからいる。というだけの子どもも少なくありません。しかし、何か掴めるであろう機会としての試合や大会です。大人が子どもの成長に期待しつつ、大会等の機会を準備する。その気持ちをも大切にしよう子どもを育てているので、大会や試合への出場機会は子どもにとって当たり前と考えています。

50代男性

補欠ゼロ。自身の経験から大賛成の取り組みです。全小や各種大会、やはり勝つこと、優勝を目指して取り組むことも、子供たちにとっては大切なこと。だからと言って、エントリーすらできない選手が出ることは全く別の次元である。より高い環境を目指せる子にはそういった環境を、なかなかそこまで行けない子には、それなりのチャンスを作るべきである。ルーキーリーグ。現在横浜市広域でルーキーリーグを立ち上げ、年間を通じて試合機会の少ない選手を中心としたリーグを開催している。これだけではトップ選手との開きはまだまだあるので、Jクラブ主催のミニゲーム大会や地域クラブ同士でBチームカップ戦、もちろん練習試合など、試合機会を数多く用意している。

40代女性

小学生のとき、練習を少し休んだと言う理由でポジションを外されたり試合で使ってもらえませんでした。中心選手は毎週別のスポーツ教室に行くために休んでいたのに、常に出場していました。結局、指導者が勝ちたいから上手い子を使っただけなのではないでしょうか。実際上手い子は送迎する、下手な子を嫌いと言言するなど、指導者の資質には落胆させられることが多かったです。試合に負けると、泣いて落ち込むべきだという空気も嫌でした。プロならともかく、小学生中学生が試合に負けたとしても、次頑張ろう！と前向きなのが好きです。中学生で部活ができるまで、参加させていただいた大人のチームで、小学生指導者とは全く違うあたたかい指導とフォローをいただき本当にありがたかったです。(指導者の資格はお持ちでない高校サッカー経験者という普通の大人が主でした。)技術だけでなく、指導者の資質についても、協会が指導してくださったらよいと思います。

40代男性

私もプレーヤーズファーストで指導している。よりうまくやりたい子には、より高いレベルの指導や環境を提供すべきだし、そうしています。また、同時にそうではない子もいます。サッカーの指導が全てではなく、サッカーを通じて努力すること、協調性、団結力などが育まれて、後の人生に生かされると思い、指導しています。いずれにしても、成長には質の高い指導と練習や試合の量、数が必要です。欧州のように一連のチームの中でレベルごとの編成がされていて、その中で流動的に、またストレスなく移籍できる環境が望ましいと思います。それが当たり前になってほしいです。当チームは大所帯のため、親の顔色を見ながら全員をピッチに送り出すだけで精一杯のコーチもいます。そうすると、より高いレベルを求める子供にとっては明らかにストレスです。マネジメントとして、始めから結果を重視する大会と、経験と底上げ、チャレンジなどを重視する試合を子供たちに事前に伝えて、子供たちの頭を整理させるしかないのが現状です。

70代男性

少年の場合〇〇CUPのような試合が多くあります。1位2位ということではなく、交流試合、練習試合の感覚であっちのチームに出かけたり、自分のチームに招いたり、1週に1回はクラブ員全員が試合に出られるような仕組みが必要だと思います。10年以上も前ですが、文科省の主催でニュージーランドのラグビークラブを見学する機会がありました。ニュージーランドのラグビークラブはこの様な考え方で(各クラブは天然芝グラウンドを3面持っていました)土曜日〇〇オのゲーム、〇〇オのゲームと朝から夕方までやって、試合が終わって今日のベストプレーヤーの表彰をして一日を終わっていました。その間父兄のみなさんはクラブ全員のためにバーベキューをしたり、自宅から昼食用のお菜を持ち寄り、おやつやクッキーを持って来たり、お父さんはクラブの自販機で売っているビールを飲んだり、お母さんたちはラグビーはしていませんがコートボール(バスケットボールに似たゲーム)をして家族全員が一日楽しんでいると聞きました。このようになればいいなと思っています。

50代男性

同レベルチーム同士の対戦を増やすために、リーグ戦が行われるようになりました。自チームとしては、全員の試合体験を増す場として捉えています。現実には、全日や地方大会の予選を兼ねる(シードを決める等も含む)ような位置づけになっているため、チームごとに方針がバラバラで、勝利至上主義チームとの対戦では、こちらもそれ相応の対応をせざるを得ない状況(補欠レベルの選手を出場させにくい)が生まれるなど、試合を設置したポリシーと現実のリーグ戦の位置づけが異なっていることも大きな理由の1つと考えます。それを補完するため、交流のあるチームとの練習試合を組んではいますが。

40代男性

うちの次男は6年生ですが公式戦のセカンドのメンバーにも入れませんでした。下の学年や後から入ってきた子供たちがメンバー入りしました。そのため2ヶ月間、試合がなくそして練習に行っても試合には参加させてもらえずずっとリフティングをさせられていました。やっと対外試合に参加できるようになりましたが次男は行きたくないと言いました。まわりと一緒に試合するのを怖がっています。こんなことで子供たちがサッカーから離れていきつかけになってしまうんじゃないでしょうか？

補欠ゼロ：【どちらでもない】理由（抜粋）

30代女性

自分でも小学生チームを持っていますが、小学生自身もととリーグ戦であっても本気の勝負をしたいと思って試合に臨んでいますし、またチームの中でも常に意識高く練習を休まずに来る選手とそうでない選手を試合のときに平等に出すということが逆に不公平感を生んだということが過去ありましたので、補欠ゼロの考え方にはどちらともいえないという考えです。その分、出られない選手はアンダーカテゴリーの試合に出られるよう配慮しています。（まったくその日試合をせず終わる選手がいまいというところは常々考えています。）

30代男性

「補欠」が必ずしもマイナスばかりとは限らない。そこから頑張っレギュラーになる人もいる。努力を続けながら「万年補欠」で試合に出られないようならチームは替えた方がよい。「補欠」の有/無しでなく、複数のチームに登録できる制度など仕組みが整っていない事が問題では？

「補欠」でも頑張り続けられる人はそれはそれで1つの選択肢だと思う。しかし、不幸にも入部したサッカー部の顧問やチームメイトと折り合いが悪くなった時に他に移動する選択肢がない方が不幸（イヤイヤ続けるか、辞めてしまおうか）。

30代男性

サッカー選手（特に育成年代）がサッカー（サッカーの試合）を楽しむ環境はどんな選手にも必ずあるべき。育成年代でもリーグ戦が主となり、多種多様な大会も増え、以前よりも沢山の選手が出場できる可能性が広がっていることは素晴らしい。しかし、チームのスタンスや指導者毎の考え方もあるから補欠ゼロとはならないし、補欠ゼロが全て正しい、どんな選手にも当てはまる、とは一概には考えられない。そういった面でも、特にジュニア年代は移籍に関してもっと寛容になるべきだし、もっと自由化するべき。

登録上の問題に関して、移籍に伴うリスクはあるべきだと思うが、期間をもっと短くするなどの試みはあっても良いと思う。その場合、移籍してから半年 or 1 年間は再度の移籍は出来ない等のルールは必要だと思う。個人的には勝ち負け、喜びや悲しみを超越したところで、サッカーをしているだけで「楽しい・幸せ」と選手が思えるのが理想。選手育成という観点では、いつでも試合に出れるどんなシチュエーションでも出場を約束される「補欠ゼロ」が正しいとは言い切れないが、グラスルーツのサッカーでプレーヤーズ・ファーストの観点で考えると必要な試みだと思う。

40代女性

基本的には賛同するが、スポーツの醍醐味は、真剣勝負があつてこそ。補欠の悔しさや、トップにあがるための競争心も勝負には必要なことではないか。レベルに応じたカテゴリー分けはもちろん必要だが、「楽しさ」や「気軽さ」を重視するあまり、強くなりたい子供たちのやる気をつんでしまつてはいけないと思う。また、一つのクラブで複数のチームを作るためには、指導者や引率者も増やさなくてはならないだろう。

50代男性

育成年代では、補欠無しが当然だと思うが、現状の高校以上の年代では仕方ないのではないだろうか？

私立高校のように施設に投資できる予算があり、遠征にも学校からの援助が得られるような環境であれば、施設拡張や遠方への遠征も可能であろうが、公立の学校では近辺での交流活動等になってしまい、多くの選手がいるチームでは試合数の確保が難しいのではないだろうか。

40代男性

全員が出場出来るよう配慮は行つたが、練習や試合へ参加率や取組姿勢によって、出場時間の調整や補欠の調整を行っている。努力しなくても出場できるのであれば、向上心は生まれにくい。世の中が競争社会であるにも関わらず、まるで世の中は全ての人に対して平等であるかのごとく偽る姿や方針は正直気持ち悪い。低学年は補欠0が基本だと思うし、チーム内の全員が高いレベルで拮抗しているのであれば、チャンスを与えるために補欠0は推奨すべきであると思う。ただし、学年が上がるにつれてチーム内の子ども達の実力差があまりにもある場合は、チームメイトや本人にとっても精神衛生上よくない側面もある。※味方がパスを出さない。本人も遠慮してボールに関わろうとしない。

補欠ゼロ：【賛同しない】理由（抜粋）

40代男性

本年度からの全日本少年サッカー大会予選が長期のリーグ戦となり1つでも多く勝1点を取り、少しでも失点を少なくという土俵の上では高嶺を目指すチームとしては補欠ゼロは、あり得ないのではないかと。下部組織やクラブチームでは特に万年ベンチが居るのでは？弱いチームには子供は集まりませんから。負け越して先がないと決まったら出てもいいぞとなるのではないかと。JFA がしっかりと主旨を明確にし、それにそルール作りをするべきだと思います。町の小さなボランティアチームでも夢見る事の出来るルールが必要です。多額のお金をかけてサッカーしている下部組織やクラブチームの子供と月1500円でサッカーしている子供を同じ土俵にあげて長期リーグをする意味がない。言っている事とやっている事をマッチさせるべきではないでしょうか。

20代男性

サッカーはスタメンで出ている選手、(8人や11人)で行われるスポーツではないからです。試合に出していない選手がいかに試合に関わっていけることが、試合の勝敗を決めていると考えています。

10代女性

確かに試合にでることは醍醐味だけど、みんながみんな試合に出れたら、技術は向上しない。今、代表の選手が小さい頃はずっと試合に出続けていたのかと問われればそれは違う。どうしたら試合に出れるのか？どうして自分はあの人とちがうのかを考えるような場面もなければ成長しない。

30代男性

楽しむ分にはみんなが参加すべきで補欠はいらないかもしれない。でも長い時間続ける、休みながら続ける、チームを支えつつ続ける、補欠の価値も一概に否定的なものだけではないと思う。補欠が必要な存在なこともある。補欠があることで生まれるものもあると思います。

40代女性

万年補欠でも、学ぶ事は沢山あると思う。大して頑張らなくても試合に出れるようでは、ハングリー精神が育まれない。悔しい思いをしなければ、向上心を持ってないと思います。子供のうちから、挫折を経験させる事も大事だと思います

20代男性

それは違うと思います。サッカーはチャンピオンスポーツ。強くなるにはチーム内で競争が絶対必要ですし、勝負に勝ち負けは必ずつくもの。日本が世界で勝とうと思っているときに、そんな事言ってる場合ではないと思います。

20代男性

近年、子供の数が減少しているためチーム内でレベルに応じたチーム編成をするのが難しい。偏った勝利主義なのかもしれないが、試合に出ている選手にはそれなりに理由があると思う。上手い選手、真面目な選手 etc.

試合に出れていない選手はなぜ出れていないのか考え、あの子には負けない、というライバル心持たすためにも補欠ゼロは必要ないと思う。このライバル心を持つことが個人・チームのスキルアップに繋がると考える。

キーワード3

障がい者サッカー

障がい者サッカー：【賛同する】理由（抜粋）

30代男性

自分は統合失調という病気で精神障害者です（精神保健福祉手帳を持っています）。しかし、フットサルに出会い、フットサルを通して前向きになりました。特に「ボールを取られたら、取り返せばいい。点を取られても、取り返せばいい。仕事でもそうだよ」とコーチから言われたときに目から鱗でした。今でも月に一度Fリーグの選手に障害者フットサル教室としてコーチングしてもらっています。そしてこの前は、健常者である一般の人のチームに参加して、キーパーとしてリーグ戦に出場しました。試合前は憂鬱でしたが、試合になったら障害や健常は関係なく、後ろから声を出し、一対一になったら迷わず飛び出しました。試合後はどっと疲れましたが、それでも仕事だけは休みませんでした。フットサルをやる前は有給休暇を使い果たすほど、すぐ休んでいましたが、フットサルを始めてから、【根性】が付いたと実感しています。

20代女性

私自身、特別支援学校の教員をしており、障がいのある子どもたちと日々過ごしています。昨年度は本校においてサッカーチームの監督を任せていただき、一ヶ月程の短い期間でしたが、子どもたちとサッカーを通して楽しい時間を過ごすことができました。感じた事は、子どもたちは障がいの有無に関わらず、スポーツを通じて子ども同士が繋がり合えるということです。子どもたちの技術だけでなく、気持ちも育っていく姿を間近でみることができ、私はとても幸せな気持ちでした。ですが課題として、障がい者の多くは余暇を過ごす場を持っていません。経済面、精神面、移動手段の有無、家庭の問題や身体的な問題、理由は様々ですが、自力で参加する事が難しい者が多く存在するという事も十分に配慮していただきたいです。障がいのある人がサッカーを楽しめる場が増えれば、私は教師として、子どもたちに自信を持って勧めたいです。そして、1人の人間として、共に楽しむことができれば幸せです。

40代男性

アンプティサッカーの、厚木のチームと交流しています。初めて、自チームの選手に見せた時は、確かに戸惑いや違う見方をしていましたが、小学生の選手も、今では、サッカーを楽しむ同じ仲間、ただ！それだけです。一つのボールを蹴る仲間、と、思っているだけです。周りの大人達が、障害者スポーツの環境に対して、大きな壁を作っている気がします。マスコミや、協会が今まで以上に公開して、障害者と健常者の壁を無くす必要が、有ると思う。

40代男性

障害があってもサッカーはできます。私が関わった4種チームでは養護学校の体育館でフットサルを行っていますが、チーム関係者だけでなく学校関係者も参加する形にしています。こうすることでより障害者への理解も進むし、共にサッカーを楽しむことが出来ます。

40代男性

可能な限り他の子供と同じように扱っています。ただし、どうしてもできない場合は別メニューをさせています。それを保護者の方にも了解いただいています。大人が特別扱いをしてしまうと、他の子供たちも特別扱いをするようになるので、できるだけ同じように扱うように心がけています。チーム内は平等であることが絶対条件です。

40代男性

誰でもサッカーを愛する人達はプレーする権利があります。それが健常者であろうと、障がい者であろうと関係ないと思います。もっともっと障がい者の方たちがプレー出来る場を整備する必要があると感じています。

40代男性

サッカーを愛する者に健常者も障害者も関係ありません。是非、これからも障がい者サッカーを推進して下さい。一番大事な事かもしれません。障がい者のサッカー環境をもう少し整えてあげるといいかもかもしれません。

10代男性

正直、ここまで障害者サッカーの協会や連盟が細分化されて存在していることを知りませんでした。障害者の方でも楽しんで頂けるスポーツとしてサッカーが広まっていく事は素晴らしい事だと思います。また、健常者の方も障害者の方も関係なく一緒になって楽しむ事が出来れば、より良い社会づくりに貢献出来ると思いますし、出来ればこの活動をもっと多くの人に知って頂けるような形をとって頂きたいと思います。

30代男性

障害を持っていようと持たなかつとサッカーをプレーする権利は平等にあると思う。障害者を障害者と見ず、みんなを同じ目で見たい。自分でプレーする環境を選び、みな同じサッカーであるしもっと出来る環境を整備してもらいたいです。因みに自分に

<p>も知的障害を持つ息子が居て、少年団へ入団させてみたがやはり健常者と同じ指導では上手いかなかった。</p>
<p>20代男性</p> <p>障害者の自立及び社会参加の支援は、障害者基本法の中でも定められていることです。健常者と分け隔てなく、障害者にもサッカーを楽しんでもらうための手立ては必要不可欠だと思います。最近ではテレビでも障害者サッカーが取り沙汰されるようになり、知名度も徐々に上がってきています。こういった支援が今以上に普及していくことを願っています。</p>
<p>20代男性</p> <p>素晴らしい試みであると思います。すべての人がサッカーで笑顔になれる環境を作っていくことこそが、日本サッカーの目指すところであるべきです。十分な環境でサッカーをできなかった団体をJFAが統括してサポートしていくことは、この一歩に他ならないと思い、この試みを推進して欲しいと考えています。</p>
<p>50代男性</p> <p>教員の始まりが『養護学校＝現特別支援学校』であり、当時はそのような発想はありませんでした。愚息が講師時代、ハンデキャップサッカーを指導しており、交流ということで練習試合をしましたが、実に楽しかったです。障害を個性と捉えるのならば、様々な取り組みが可能かと思えます。</p>
<p>40代男性</p> <p>私のチームに軽い自閉症の選手がいます。とても明るく楽しくサッカーをしています。健常者と障がい者がサッカーすることは、とても大事だし、指導者も勉強して皆が楽しくサッカーをする事がスポーツだと私はおもいます。</p>
<p>30代男性</p> <p>交流、情報交換を通じて、どういう障害があるのか、その症状、悩みなどを考えるきっかけになるし、障害があっても同じスポーツを出来ているという尊敬から、周囲に対する気遣い、思いやりが生まれると思うから。</p>
<p>30代男性</p> <p>垣根はない！これに尽きます。</p> <p>健常者が健常者の基準ですべての事を考えるのではなく、障がい者の方も障がい者の方の基準や当たり前があるので、障がいをもっていることを認めただなかで、共に分かち合えるモノを見出していきたいし、互いを知り互いを求めるという事を学ぶにもサッカーは適していると考えています。</p>
<p>30代男性</p> <p>身体に障害を負い、その喪失感ばかり知れない。また、社会福祉では障害者に提供されるレクリエーションは、ボール投げや玉転がしのような幼稚な物ばかり。事故や安全性に配慮しているのだが、ゲーム性に欠ける。何よりハビリダスの概念が強く、スポーツとして勝敗に一喜一憂する「勝負」の観点が少ない。JFAが統括し、安全性に配慮はしながらも「勝負」というスポーツの本質が、生きる活力となり、生きがいとなる。</p>
<p>50代男性</p> <p>日本ろう者サッカー協会はFB上で知り、日本知的障がい者サッカー連盟のことはほんの最近なにかのメディアで知りました。お母さんのおなかから生を受けた人は全て平等です。社会では、まだまだ、奇異な眼で見る方々が多く見受けられます、残念なことです。ユニバーサルデザインの7原則の様に、どのスポーツより、先ずはサッカーから発信し全競技に繋がって欲しいものです。</p>

障がい者サッカー：【どちらでもない】理由（抜粋）

<p>30代男性</p> <p>取り組みを進めることは良いと思うし、健常者との「普通の」交流が可能なら推進するべきと思うが、物理的に交流が不可能な場合もあるし、健常者側が障害者に「気を遣いながら」サッカーをするようなことになっては、「サッカーを楽しむ」という観点において本末転倒だと思う。また、障害者との交流に対して積極的でない（あまり交流したいと思わない）人たちに対して、押し付けがみに「交流しましょう！」と迫る場合が容易に想像されるので、これはかえって偏見を加速させることになる。</p>
<p>40代男性</p> <p>障害者サッカーが現時点でどのような状況にあるのか認識できていません。</p>
<p>30代男性</p> <p>色々なケースがあると思うのでなんとも言えない。</p>

50代男性

障害者スポーツは、障害の中身、知的や身体障がいによって変わるので、対応がなかなか難しい。

障がい者サッカー：【賛同しない】理由（抜粋）

20代男性

各障がい者団体が個々に活動を行っているのは、本当の普及にはつながらないと思います。自分のように目が不自由(弱視)でロービジョンフットサルをしたくても競技者がいないのでロービジョンフットサルは成り立ちません。自分のチームでは他にも知的、ろう者や色々な障がい者と健常者が混ざりルールを工夫し障がい者フットサルをしています。本当の普及を目指すのであれば地方からの参加は絶対に必要だと思うので競技人口の足りる都市部だけでなく地方のため社会のために障がいを差別することない障がいをサッカーを普及させてください。例えば、先ほどのように知的、弱視、ろう者などの障がい者を3人、健常者を2人などとして試合を行うなど工夫して統合した障がい者サッカーを目指すなど検討していただきたいです。個々の団体が個々に活動されるようでは賛同できません。

障がい者サッカー：活動事例（抜粋）

30代男性

精神障害フットサルリーグが月に一度、病院主催でフットサル施設で第三木曜日に行われていて、あとは10月3日にあるソーシャルフットボール協会主催の全国大会に向けて5月下旬～9月下旬迄、精神障害者フットサル選抜の練習が毎週水曜日になり、素晴らしい監督、コーチ、スタッフの元、充実したトレーニングをさせてもらっている為。地元サッカー少年団にも練習に精神障害者の人達を少年団の指導の手伝いや社会人の練習、町主催の大会に参加できるように協力して頂いています。

40代男性

10年前に障がい児者のためのサッカーチームを設立し、活動をしています。現在は、県内でもチーム数が増え活動の場所も大会等のイベントも増えてきました。

それでも、まだまだ県をはじめ地域では、活動する場所も障がい児者も少ないのが実情です。

50代男性

私は、アンブティサッカーのチームと知的障害者チームのお手伝いをしていますが、今回協議会が開催されたことを知り日本サッカーが飛躍する歴史の始まりだと思いました。クラマーコーチのプロサッカー魂を学び、Jリーグが始まり、ワールドカップの初出場、日本サッカーの夢が現実になるのを見てきました。健常者と障害者が共にサッカーができる事が本当の世界のトップレベルだと思う。ワールドカップ優勝は夢ではない。障害者チームだけでなく多くのチームの悩みだと思うが、日本はまだサッカーグラウンドが足りない。年々サッカー人口は増えているがグラウンド不足が障害になっている。

40代男性

市サッカー協会は、県電動車いすサッカー協会を支援しています。県内に2チームの登録があり、市にそのひとつのチームがあることから、そのチームを核として県電動車いすサッカー協会が設けられています。市サッカー協会では、県電動車いすサッカー協会で開催する大会や練習を全面的に支援しており、大会のときには、運営を全面的に支援しています。市内の中学校サッカー部の生徒たちは、大会のときには、全員で駆けつけ、電動車いすのチームを応援しています。

30代男性

月に2回、精神障害や知的障害、発達障害、自閉症、引きこもりなどを対象にしたNPO主催の「障害者フットサル教室」に参加しています。そのうち一度はプロの選手がコーチングしてくれます。キッズジュニアを対象とした小学生以下のクラスと大人を対象とした一般の部があります。昨年出場したカップでは8チーム中準優勝で自信をつけました。今年開催される、日本ソーシャルフットボール協会主催の精神障害者フットサル全国大会出場を目指して、練習を励んでいます。

50代男性

うちは、健常者のサッカークラブですが、過去に、義足、聾、ダウン症の部員がいました。障がい者を特別扱いせず健常者と同じトレーニングを試行錯誤で行っていました。義足の部員には、日本初？サッカー用義足を作ってあげることができ今では社会人になりアンブティサッカーに頑張っているようです。聾の部員はろう者サッカーの日本代表に入ったこともあり今でもサッカーを続けています。私自身、彼らに出会い指導してきたことが自分自身の勉強になったと思います。健常者も障がい者もサッカーを思う気持ちは変わ

らないと思います。
<p>40代男性</p> <p>自身の子どもが聴覚障がい児であり、兄に影響されてサッカーを始めています。当人にとっては、声が聞こえないことが当たり前、普通のことで、なんら苦にしている風ではなく、普通の子もたちと同じ様にプレーしています。ただ、練習時や大会時に細かい指示等、まだ困難であるため、指導者として登録してもらい、一緒に練習をさせて頂いています。現在は、少年カテゴリーであるので補聴器を装用してプレーしていますが、今後成長に伴い、ルール上、補聴器を装用してのプレーはできませんので、それを補助すべく、障がい用の審判資格、指導を取得していきたいと考えています。また、監督を始め、ほかの指導者の方、チームメイトの子もたち（上級生）にも理解を頂いており、手話でのコミュニケーション等にも取り組んでいます。</p>

障がい者サッカー：活動困難な理由（抜粋）

<p>40代男性</p> <p>まだまだ、浸透されていない現状を変えていく必要があります。</p>
<p>30代男性</p> <p>まだ偏見があり、一緒に出来るところが少ない。</p>
<p>30代男性</p> <p>なかなか関わるチャンスがない。</p>
<p>40代男性</p> <p>遠くまで行かないと参加出来ない。</p>
<p>50代男性</p> <p>障害者がサッカーをするためのチームがなく、登録やチーム運営をするスタッフ、指導者がいないこと。また私自身、サッカーをプレイしたいという障害者にも会ったことはないの、障害者の側でも、それほど興味も必要性も感じていないのではないかと。ただし、県特別支援学校スポーツ大会（全県範囲）の競技ではサッカー競技が実施されている。これは教育の一環という趣旨なので、サッカー協会ではなく県教育課の主催であると思われる。大会も単一日、同一会場の開催であり、対象は高等部のみ、参加チームは10に満たないのでは？</p>
<p>30代男性</p> <p>指導者が居ない。 環境が整って居ない。</p>

キーワード 4

他スポーツとの協働

他スポーツとの協働：【賛同する】理由（抜粋）

40代男性

欧米などのスポーツ先進国では、大学までは色々なスポーツを経験したり、オフシーズンに他競技を行うのが、当たり前となっている。日本も、一昔前は放課後に色々なスポーツや運動(外遊び)をしていたが、現在では、場所がないこと。ひとつの競技に特化しており、応用力が効かないこと。掛け持ちを良しとしない風潮が大半を占める。トップダウンで、環境と思考を変えていく必要はあると思う。

50代男性

私自身も様々なスポーツを経験しました。その経験がサッカーに役立つこともありました。色々なスポーツを経験するということは、色々な人たちと接することにもつながります。こうした中で、色々な発見や自身の成長につながることもあります。ぜひ、取組みを推進していただければと思います。

30代男性

幼少期、少年期はサッカーだけでなく他の様々なスポーツをやるべきというのが自論です。例えば、武道をやらせるのも礼儀を教育する上で良いものと思います。ただ、最近の子供たちは土曜日が休みの学校が多いため授業が詰め込まれ、帰宅時間が遅くなり、そこからさらに習い事や塾などで自由な時間＝友達と遊ぶ時間が取れなくなっているように感じます。公園で遊んでいる子供を見ることも少なくなっています。本当のグラスルーツはチームや少年団でなく、公園や路地裏でボールを蹴る。そこからではないでしょうか。

30代男性

「スポーツ」×「○○」というテーマはそれぞれの競技が発展していく中で必要不可欠なものだと思います。プロスポーツクラブが地域との繋がりを密にしていたり、地域発展に貢献していたりすることはもちろんですが、何よりも総合スポーツクラブ（Sport Club, Athletic Club）の発展をサポートしていく必要があると強く感じます。

50代男性

日本人の悪癖である閉鎖性を撤廃することで、多くの才能が開花するチャンスが増える。ユースでは色々チャレンジして選手の可能性を探り、自分の希望する種目・コーチ等回りの大人の向き不向きの判断からその選手にとって適性が見つかる。スポーツ環境の改善で、スポーツクラブの存在は見過ごすことはできない。一つに特化するのもよし、色々やってみるのもスポーツを楽しむ醍醐味である。

40代女性

子供のうちは、心も体もどんどん成長するので、楽しく、さまざまな動きをすることで、その後の能力も高まると思います。本来は、遊びでそのようなことができればベストですが、今は、安全に思い切った遊びのできる環境が整っていません。スポーツがそれを補ってくれと期待しますが、一つのスポーツだと偏りがあったり、また勝負にこだわりすぎて、心が荒んでしまうように思います。そのため、もっと、ほかのスポーツと協働して、からだを動かすことを楽しめば、からだもこころも成長して、広義的に、サッカーの能力も高まり、より一層、サッカーを楽しめると思います。

40代男性

色々なスポーツを経験すると事で、豊かな感性をもった人間形成にとてもプラスになると感じています。ひとつのスポーツだけに偏ってしまうと、もしそのスポーツで挫折した場合にスポーツ自体を辞めてしまう可能性もあります。特に育成年代では色々なスポーツに触れ自分が向いているもの、好きなものが分かるし、例えばその後サッカーに戻ったとしてもサッカーのプレー時にきっとその経験が役に立つと思っています。

40代女性

小学生のときに他のスポーツをいくつもやっていましたが、指導者はサッカーだけに専念しろという感じでした。ベンチ入りすらかなわなくなりそうで、結局サッカーだけになりましたが、続けていてもよかったのではないかと振り返ります。何かのスポーツ、それだけではなくて、共に振興するのがよいと思います。

40代女性

大会やチームの活動だけで週のスケジュールがほぼ埋まってしまう、他の活動を経験する機会がない子どもたちも多いのではないかと思います。昔と違って、遊びで、他のスポーツや鬼ごっこやその他野外活動をすることも少ないので、そういったことを経験できるとよいと思う。サッカー選手はサッカーしかできない、野球選手は野球しかできないというのは運動能力に限界があり、その競技に専門に

<p>取り組もうとしたときにも幅が狭いと思う。</p>
<p>40代男性</p> <p>サッカー等のスポーツが習い事化しており、ある意味塾など同等の意味合いがあるのではと感じている。率直な楽しみとしてはないとらえられ方をしている場面もあり、親世代への啓蒙も必要であろう。そもそも子供たちの生活が忙しすぎる大人のようにも感じており、違和感もある。</p>
<p>20代男性</p> <p>僕はこれまでサッカーしかしてきませんでした。今でも自分がサッカーの適性があるのかわかりません。もしかしたら他にもっと自分に合ったスポーツがあったのではないかと思うこともあります。年を重ねると段々と新たなことに挑戦することに抵抗を感じてきます。「今更始めても経験者には勝てない」と考えてしまいます。幼少期に多くのスポーツを経験しておくべきだと考えます。</p>
<p>30代男性</p> <p>スポーツそれぞれ使う神経や筋肉も違います。いろいろなスポーツを経験することが子供達の健全育成にはより効果的だと思いますし、いろいろな視野が広がると思います。</p> <p>当クラブでも、複数の選手は他スポーツとの掛け持ちをしており、サッカー優先活動を押し付けていません。私自身、サッカーを小学生～高校生まで続けながら、剣道、ラグビー、卓球を掛け持ちしました。それは、私にとって結果的にどのスポーツの経験もプラスに作用しました。</p>
<p>20代男性</p> <p>アメリカはアメリカンフットボール、サッカー、野球、バスケットなど全てが強い。それは、サッカー選手はサッカー、バスケットボール選手はバスケットなど同じ競技ばかりにこだわらず、色々な競技を真剣にする事で、色々な動きが身につき、それが最終的に強さ、巧さになり結果が出ている。なので日本もそうするべきだし、そうあるべきだと思う。</p>
<p>20代男性</p> <p>サッカーを生涯スポーツとして続けてほしいという願いを抱いている。その中で、サッカーで学んだことが生かすことのできるスポーツは多々あり、サッカー選手としての精神や姿勢は、人生において一生支えになると思う。また、プレーヤーが自由な選択をするために、指導者が自分本意な指導をしてしまわないよう注意する必要がある。「プレーヤーの成長のため」に指導者はいなければならぬと考える。</p>
<p>50代男性</p> <p>青年期以降の生活習慣病でのキーワードの1つが運動です。1つの傾向として、運動習慣がない方は、そもそも運動を好まないケースがありますが、その理由として幼少期、学童期に運動が楽しくなかった事を理由に挙げています。運動が上手にできなくても身体を動かすことが楽しいと感じることを、幼少・学童期に得られることは、将来の健康寿命維持にも繋がります。JFAの指導方針であるプレイヤーズファーストはどのスポーツでも言えることにも拘わらず、他種目（野球など）ではそれが共有されていないケースもあるように思います。身体を動かすことが楽しいと思えるような指導を他スポーツとの協同において実現していただきたい、と思います。</p>
<p>50代男性</p> <p>サッカーは、チームメンバーや相手選手、審判などすべての人に優しくなくてはなりません。テニスや水泳などの個人競技に触れることで、自己責任を学ぶことができます。その結果、責任所在の重要性や、謙虚さや主体性・積極性も備わると考えます。また、身体的にも幼少時には、あらゆる可能性を求めて、他スポーツを楽しむ機会づくりをすることも賛同します。</p>
<p>50代男性</p> <p>選択肢がたくさんあるということは、その人間の特性を生かす場が多くあるということです。サッカーを離れても他の競技をがんばってすばらしい選手が出てくることはとても良いことです。また、他競技で鍛えられた選手がサッカー選手として大成することも考えられるからです。地域でさまざまな競技間の交流がなされることがスポーツ文化の構築につながるはずです。みんなで協働して、良い社会を創りたいものです。</p>
<p>40代男性</p> <p>私は中学校の部活動でサッカーの指導に関わっていますが、今までの生徒の中でサッカーと水泳を両立させて、水泳では中学校の時に全国大会へ、高校ではサッカーで全国大会へ出場した生徒がいました。その他、空手や駅伝、ピアノなどサッカーと並行しながら、自分の可能性や趣味を広げる活動をしていた生徒がたくさんいます。また、バスケット部に所属していた生徒が陸上の走り高</p>

跳びで、当時の全国ランキング 2 位の記録を出したこともあり。特に中学生のうちは、サッカーだけではなく、いろいろなスポーツにチャレンジしながら自分の可能性を広げられるような環境を整えてやりたいと思います。

他スポーツとの協働：【どちらでもない】理由（抜粋）

40 代男性

考え方には賛同しますが・・・

地方では環境整備の恩恵が受けにくいスポーツ全体環境整備の前に自分の周りのサッカー環境を改善してほしい！サッカー人口に対するサッカーコートが少なすぎる

30 代男性

わたしは他のスポーツとの共働でなくても感性、創造性、自主性は身に着くと思っています。私のチームではみんなでキャンプに行って料理や洗濯を自分達でやらせたり、アスレチックについてみんなで楽しんだりしてサッカー以外のこともさせています。その中でも充分、感性、創造性、自主性は身に付いていると思うので、他のスポーツとの共働は否定しませんがどちらでもないにさせていただきました。

40 代女性

多くのスポーツ団体と協働し、多くの人たちが継続的にスポーツを楽しめる環境整備には大賛成ですが、JFA にはまずサッカーの環境整備を重点として欲しいです

40 代男性

思想としては、育成の観点では良いと思うが、実際は子供たちは忙しく、「サッカーの他に」ということであれば余裕がないと思うし、「サッカー指導の中で」ということであっても、その頻度によると思う。

50 代男性

将来の目標としては賛同できるが、現実的ではない。若年世代は多くのスポーツ、遊びを経験すべきであるという考え方も承知し、理解できるが、それをサッカーチームとして実施しようとすると、それはサッカーチームではなく、ともするとスポーツ愛好会といったようなあいまいな団体になる。そしてその団体は、小学校の体育授業の内容の地域特化版になると思われる。また、スポーツチームを運営して利益を得ている N P O 含む法人であるサッカーチーム、スイミングスクール、テニススクール、フィギュアスケートスクールなどにとっては、チームの方向と全くそぐわず、「他のスポーツに親しもう」という方針を掲げることは、死活問題となる。選手本人と保護者がどう望むかを考えても、キーワードの「他スポーツとの協働」は絵に描いた餅の印象が強い。失礼と飛躍を承知で述べるが、そろばん塾に通う生徒が、センセイから「今日はそろばんをせず、習字をしましょう」と言われたらどう思うか。あるいは、英会話教室に通う生徒が、そこで日本古来の文化に触れることの重要性を説かれ、茶道や華道の講義を受けたらどう思うか、ということだと思う。

他スポーツとの協働：【賛同しない】理由（抜粋）

40 代男性

サッカーの環境整備なくして他のスポーツとの協働はありません。
少なくとも私の地域はサッカー環境整備が整っていないため。

30 代男性

他のスポーツと協働したスポーツ環境整備を考えているから施設などのハード面の整備が遅れているという言い訳にしか聞こえない。サッカー協会なのだから、まずはサッカーの施設が十分いきわたるようにしてほしい。サッカー場(人工芝)を作れば、ホッケーやラグビー、アメリカンフットボール、アルティメットなどのスポーツやランニングなどのスポーツにも活用できるはず。毎年 1 個ずつでもグラウンドが整備され利用されているのであればよいと思う。

20 代男性

他スポーツ団体がサッカーに対しての理解、協力の姿勢がない。子供達の取り合いをしているような感覚の人が多い。

他スポーツとの協働：活動事例（抜粋）

30 代男性

総合型スポーツクラブとして様々なスポーツがあります。相互のスポーツ同士で会員が往き来して体験をしたりできるような仕組みも模索中です。また、他のスポーツ団体呼んでそこへ体験参加して他のスポーツのよさを学ぶ機会は設けたりしています。

30代男性

所有するサッカー・スクール・クラブと異種のスクール（スポーツではない）と姉妹クラブの提携を結び、相互のクラブを往き来し、交流をしています。

他のスポーツ、種目、考え方を経験することは、実際に主として行っているスポーツに対して、新しい価値観を植えつけることができると思います。より多面的な物事のとらえ方できるようになります。「サッカーが全て」ではなくなり、また、純粋にサッカー以外を遊べるようになります。

20代男性

子供が他のスポーツに興味をもって「部活を辞めたい」と言い出した時に、帰宅部にならない限りはその子の意見を尊重して転部させて他のスポーツを行わせている。また、帰る場所も用意はしておいてあげる。

50代女性

小学校の時所属していたチームが、YMCA 関係だったので、体操や水泳も同時に学ぶことができ、また、勝利至上主義ではなく、チームや地域との関係、ボランティア活動等、様々な経験をさせていただきました。その時の経験や、サッカーが楽しい！と心から思えるような経験をしているので、大学生になった今もサッカーを続けています。（強豪校ではありませんが。）低年齢の時こそ、大人の強制？プレッシャー？勝利至上主義ではなく、様々な経験が必要だと思います。

40代男性

ゴールデンエイジに様々なアプローチが重要である事を指導者同士が確認しています。またその様な考えを保護者にも伝えていきます。他の習い事を開始したいと相談を受ける際も、その子にとって最善の形になるように考えています。

40代男性

年に数回、体験レクリエーションという名前でサッカー以外のスポーツを楽しむ時間を設けています。具体的にはドッジボール、バスケットボール、ポートボール、ハンドボール、フラッグフットボール、ラケットベースボール、バドミントンなど。その競技に詳しい指導者を特別ゲストとして呼ぶ事もあります。

60代男性

1. バルシューレメソッドを使って、幼年期の子供たちからスポーツに親しむよう、バルシューレクラブを地元のサッカー以外の他種目（テニス、バスケット、野球）の指導者と力をあわせ、設立し教えている。
2. スポーツ交流会の開催
町内の他のスポーツ指導者（テニス、バスケット、野球、バルシューレ）と力をあわせ、スポーツによる地域活性化もめざし、国土交通省から名称使用の許可を得て、スポーツ交流会を開催している。今年で3日目。
3. 他種目と協力して、毎年町内の総合グラウンドの整備を行っている。

40代男性

小学校レベルのサッカーチームですので、フットベースボールやソフトボールのチームと曜日は違いますが、グラウンドを共用しています。少子化ではありますが、他団体と協力してスポーツをやっていない子供たちを引っ張ってこようと努力しています。

40代男性

地域総合型スポーツクラブと連携し他競技の体験を定期的にさせている。
他のスポーツと同じ日に大会を開催し地域を盛り上げている。学校部活動であれば他の競技の応援に行けるので学校全体が良い雰囲気になる。逆にサッカーしかしたことがないクラブチームの子供たちは他のスポーツも興味深く見ている。遠征に行く時も行き先が一緒なので大型バスを一台貸し切れば環境にも優しい。バスの中も盛り上がる。特に女子と一緒にいるときは。

他スポーツとの協働：活動困難な理由（抜粋）

60代男性

近くの少年団が、野球とサッカーの複合種目で創立されたが、3年ほどで、野球の指導者側から選手を取られるということで、別れた例がある。

サッカー側の理念が他の種目の理解が得られるか？それが問題だ。

<p>50代女性</p> <p>施設不足。</p>
<p>40代男性</p> <p>例えば、身近な所では野球があるが、情けないことですが犬猿の仲。手を取り合うことは難しい。</p>
<p>60代男性</p> <p>「地域総合型スポーツクラブ」では実現しているのかも知れませんが、一般のクラブでは、そのような環境には至ってないと思います。「Jリーグ百年構想」の基幹になる部分ですが、まだまだこれからですね。</p>
<p>30代男性</p> <p>共同でグラウンドを使用しないといけないのですが、どうしても周りではサッカー人気が強くと、他のスポーツ『特にソフトボール』からは、敵対視されます。その考えをお持ちの指導者であれば、何を言っても聞き入れません。どの種類も同じスポーツ好きなのだと思います。</p>
<p>50代男性</p> <p>遊び場の減少やスポーツ少年団に入るとなかなか他の競技を体験出来ない。</p>
<p>30代男性</p> <p>他のスポーツと関わる機会がない</p>

キーワード5
施設の確保

施設の確保：【賛同する】理由（抜粋）

30代男性

サッカーをしている人口に対して明らかにサッカーをする施設が少ないと思います。県外にできれば遊休地、廃校、休耕田、空き倉庫、ゴルフ場空きスペース等を利用してグランド施設を作れると思いますが、実際都内だと難しいのではないかと考えています。また現状、少年団や中学でプレーする選手が減りクラブチームでプレーする選手が多くなったのも原因だと思います。年々クラブチームも増え続け、少し前まではグランドがなくてもクラブチームが活動できていました。ジュニアやジュニアユースが増えた事により、施設が足りなくなってきたのも事実だと思います。私もクラブチームでジュニアユースの指導者をしているので、グランド施設の確保だったり、グランド施設を作ったりできるようになれば、子供たちのためにもいいと思うので賛同させていただきました。

30代男性

これに関しては直ぐにでも行政等に対してサッカー協会からも強く働きかけてほしい。現に活動地域では施設の不足が深刻です。毎月の公共施設の抽選も通らないことも多く、安定した活動ができていません。また公共施設の増設、増枠には行政の消極的な姿勢が否めません。たとえば、公共施設の管理についても、週末のグラウンドを午前、午後の2枠だけで管理しているのがほとんどで、普通のチームは4時間も使用しないため、残りの2時間はグラウンドが空いているのに誰も使用できない状況で勿体ないです。また、グラウンドも全面使用のみの予約で片面使用枠を作らないために、これを10名足らずで使用するチームもあり有効な活用ができていません。また、週末のグラウンドを全てリーグ等で独占するため、競技志向でないスポーツ愛好家の人たちが団体で安くスポーツを楽しむ場所がありません。そのような人たちがスポーツをする場合は民間施設のフットサル場を利用するなどしか方法がなく、せめて週末にも2時間ほどそのような人向けの枠があってもよいのではと思います。スポーツの場は競技志向の方たちだけの物ではないので。また、学校施設も利用が開かれているとはいえません。

30代男性

高校の部活動なので、自校のグラウンドを利用して活動を行っています。しかし、野球部、陸上部と併用なので、よくてハーフトート、陸上部の投擲陪員が活動する曜日は、コート4分の1程度が使用可能なコートとなります。地域にも、運動競技場がありますが、距離があるため、部員によっては交通費がかかり、なかなか使用できません。また、近くには大学のグラウンドがありますが、そのグラウンドは使用料金が必要になります。芝でなくてもかまわないので、あと少し近くにグラウンドがあればなと思っています。

40代男性

地方の中体連チームは自校グラウンドがあります。しかし、他の競技との共有やピッチの広さ（せまい）など自由に行えないのが現状です。また、ほとんどがクレーです。しかし、公園なども制限あったり、蹴ったボールが自動車にあたるなど、現状が変化していません。そこで、せまいながらも、ボールを蹴ることができる環境は非常に重要だと考えます。

30代男性

サッカー専用施設の確保は、野球や陸上、屋内競技と比べてかなりハードルが高いと感じている。まず既存施設の数が圧倒的に少ないので、小さなものでも人工芝でも構わないので、数をそろえるのが重要だと思う。またフットサルコートなどの施設をすでに所有している民間資本に補助金を出すなどして、利用者の負担を軽減する方法も検討してもらいたい。公共の施設（体育館など）と比べて、民間所有のフットサルコートは利用料金が異常に高く、プレーの機会消失につながっている。

30代男性

これに関しては直ぐにでも行政等に対してサッカー協会からも強く働きかけてほしい。現に活動地域では施設の不足が深刻です。毎月の公共施設の抽選も通らないことも多く、安定した活動ができていません。また公共施設の増設、増枠には行政の消極的な姿勢が否めません。たとえば、公共施設の管理についても、週末のグラウンドを午前、午後の2枠だけで管理しているのがほとんどで、普通のチームは4時間も使用しないため、残りの2時間はグラウンドが空いているのに誰も使用できない状況で勿体ないです。また、グラウンドも全面使用のみの予約で片面使用枠を作らないために、これを10名足らずで使用するチームもあり有効な活用ができていません。また、週末のグラウンドを全てリーグ等で独占するため、競技志向でないスポーツ愛好家の人たちが団体で安くスポーツを楽しむ場所がありません。そのような人たちがスポーツをする場合は民間施設のフットサル場を利用するなどしか方法がなく、せめて週末にも2時間ほどそのような人向けの枠があってもよいのではと思います。スポーツの場は競技志向の方たちだけの物ではないので。また、学校施設も利用が開かれているとはいえません。

30代男性

公園でなかなかサッカーができない時代。どうかしてください。男女のチームがあるクラブだとどうしても男子優先になり女子のグラウ

<p>ンド確保が難しい現状をどうかしてください。地方は、確保がしやすいと思いますが都心はなかなか厳しい。公共のグラウンドもなかなか取れない現状。例えば、土日の日中は、子供のみにして夜は大人などにしてほしい。たまにしか使わない企業のグラウンドを子供達に開放してほしい。</p>
<p>60代男性</p> <p>どのスポーツでも同じ悩みを抱えていると思いますが、私に関わる電動車椅子サッカーはその特殊性から練習や大会の会場を確保する事が難しいのが現状です。</p> <p>障害者の方達をもっと利用し易い体育施設の整備、拡充を進めて頂ければと思いますし、障害者の方達が使い易い施設は健常者にとっても使い易さの向上に繋がると考えます。</p>
<p>20代男性</p> <p>施設が少なすぎる現状は極めて厳しい。学校も簡単に使えない環境になりつつある為、サッカー専用グラウンドなるものは早急に検討しなければならないから。日本は野球専用グラウンドは多いが、サッカー専用はまだ普及されていない。体育館もあるが、やはり屋外のピッチが少ない。</p>
<p>30代男性</p> <p>そんなに立派な施設で無くても構わないので、ちょっとした空き地を自由に使える環境が必要。安全面はちゃんと考えればクリアできると思います。大人があきらめが早く、すぐに「ボール遊び禁止」としてしまふのは考え不足だと思います。</p>
<p>30代男性</p> <p>学校の部活動であれば、活動場所がある。しかし、クラブチームの多くは、ホームグラウンドと呼べる活動場所が無く、毎日の練習場所を確保することに苦慮しているよう。M T Mメソッドの確立が難しいチームもある。クラブの規模が小さく、施設があっても気軽に施設を借りられないようなチームも散見する。学校の夜間開放などもあるが、あくまで校庭は学校のものであるから満足のいく施設ではない。学校によっては、タータンの様な校庭で練習をしている部活動も存在する。</p>
<p>40代男性</p> <p>街クラブベース、ないし一零細企業での活動では、確保の力は限られている。また、公共施設などは他団体や、その場所場所でのローカルルールにより決められている場合が多くあり(特に学校などの公共施設では)、新規参加が非常に難しい。</p>
<p>40代男性</p> <p>チームの激増により、小学校の利用がものすごく難しくなりました。小学校だけでは活動できなくなり、地域の草が生い茂る広場の整地をしました。自治会とも関係を深め、草刈、清掃、自治会行事にチームで参加するなど、地域に根差した活動を通じて、近隣住民にも認めてもらえる様になりました。</p>
<p>50代男性</p> <p>地域のチームで部員が約 180 名の大所帯であるため、活動場所の確保にはいつも苦労している。ほぼ無料で借りられる小学校の校庭は、同じような地域のチームが多いため利用できる回数は限られており、公共のグラウンドを抽選で確保したりしているが、それでは足りないので民間のコートおよびグラウンドを借りている状況である。チームの運営費用に占めるグラウンド利用費の構成は高く、慢性的な課題となっている。</p>
<p>70代男性</p> <p>施設の絶対数が不足している。市や町が遊休地を開放していない（河川敷にパークゴルフ場が多数有）無料開放している）。町の中に利用していない公園や公園にしようと計画した空き地がかなり多くあるがサッカーなどに利用させてもらえない。</p>
<p>30代男性</p> <p>今の時代、サッカー禁止の公園が沢山あり、息子の通う小学校でもボールを蹴るのは禁止されています。手軽にリーズナブルに皆が利用出来る施設が増えればもっと日本サッカーは発展すると思う</p>
<p>30代男性</p> <p>もっと自由に誰でもスポーツを出来る場を造ることが必要だと思う。先ほど書かせてもらった空き地も同じですが、初めて会ったもの同士がボールを蹴ることですぐに打ち解けコミュニケーションをとれるようになるなどの昔は当たり前にあったような体験を子供達に経験してもらいたいと思う。</p>
<p>50代男性</p> <p>地方の定め！野球設備は多いがサッカー設備は少ない！</p>

1) 野球は雨が降ると練習はあまりしない、サッカーは雨にあまり左右されないため、グラウンドが荒れて、雨の後のグラウンド状況が非常に悪くなるため、クレーのグラウンドを使用させたくない市の体育課の考えがある。
 現に、多目的広場と言いつつサッカーの使用を禁止しているグラウンドは数多くある。
 サッカーグラウンドを作ったといいつつ、使用料が高かったり、練習には使えない、試合のみ、大会でのアップも禁止・・・尚且つ練習場は無し！
 使いたくても使えない、使いづらいのが実情だと思います。

施設の確保：【どちらでもない】理由（抜粋）

<p>20代女性 もちろん、施設がより多くなってくれることは非常に素晴らしいと思います。しかし、現実的に施設をいきなり増設していくことが可能だとは考えにくいです。ですから、各チームがお互い歩み寄り、このような機会を活かして、合同練習や積極的な練習試合などでまかなっていく必要があると思います。その手助けや援助、システム作りが優先されるべきなのではないかと感じます。</p>
<p>30代女性 賛同したいですが、現実にはそう簡単にもいかないと思います。ジュニア世代は、ボランティアコーチなど、チーム自体にお金をかけるにも限界があります。各地域に運動施設があれば助かりますが、市町村など地域との連携もあると思うので難しく感じます。でも、2020年に東京オリンピックが開催されるからこれを機会に運動施設の充実や関心が高まればイイなと思います。子供が習いばたける未来に向けて、大人がサポートできること。協会の方々のお力も借りて、一緒に作り上げていきたいですね。</p>
<p>40代女性 施設を造るという発想がなかった</p>
<p>40代男性 正直な事を言えば、施設の確保は、サッカー協会等、自治体の力で確保して頂いた上で、皆が利害関係関係なく、オープンな状態で予約出来る状況、状態にして頂きたいと思っています。</p>
<p>50代男性 現状では各スポーツの取り合いにならないでしょうか。造っても造ってもスポンサーを抱きかかえていたり早いもの勝ちを理由に独占されている場合が多いです。またトップチームが優先されている現状こそ協会がしっかりコントロールしてほしい。</p>
<p>30代女性 確保したいけれど、近隣の理解や金銭面などの問題が多いと思います</p>
<p>40代男性 サッカーグラウンドを整備、維持できるほど各チームに資金があるように思えない。</p>

施設の確保：【賛同しない】理由（抜粋）

<p>40代男性 小さなチームは自力で整備する余裕がない</p>
<p>40代男性 施設は大切です。しかし数ばかりあっても維持費等考えると地方では難しいと思います。あったら嬉しいですけど現実的ではないと思います。</p>
<p>40代男性 ちょっと理想論に近いかなと思う。チームやクラブが施設を整備するには、規則、資金が必要であり、現実的には厳しいのではないかなと思う。</p>
<p>20代男性 多すぎるクラブチームも問題だと思う。</p>
<p>50代男性 費用の問題。個人では、出せる金額ではない。</p>

施設の確保：活動事例（抜粋）

60代男性 長年の我々市民の要望が実り、数年前行政は天然芝、人工芝サッカー施設が完成した。長年、クレーグランド（ナイター照明塔付）での活動であった。 行政への「施設を造る・造らせる」働きかけ方法は千差万別。唱えるだけでは実現しないことは明白。
40代男性 企業の施設内の場所をお借りして、芝を植え、今も指導者、父兄さんと芝刈り等の作業をして維持しています。
40代男性 市から借りているグランドにチーム運営費からグランド整備費を捻出し、芝植え、手入れを定期的に行っています。
40代男性 小学生サッカーの練習場の確保が難しく、私有地を無償で借りて整備を行い、練習場とする取り組みを協会として行っています。
40代男性 自チームが大学OBチームであり、寄付を募って大学グランドの人工芝の敷設・張り替えなどを実施。
50代女性 キッズサッカーに関して、保育園や幼稚園の園庭を芝生化する取り組みが大学のサッカー部の活動の一つとして実施し、園児に提供している。
40代男性 サッカーグラウンドについては、空き土地を行政が買い取り、totoの助成金などを使って人工芝グラウンドを造るケースが出てきている。一方で、屋外のフットサルコートはまだ官民ともほとんど手掛けられず。
50代男性 河川敷に芝生の管理をして多くのチームが使えるように市から管理委託していただき活動している。
40代男性 最近、チーム創設者が空いていた倉庫を借りて室内練習場（人工芝）を造ってくれました。
40代男性 ほぼ遊休していたテニスコートが人工芝のフットサル場として生まれ変わって活動の範囲が広がった。toto 基金からの補助で造られ、地域からもその理解が広がっている。
40代男性 倉庫の床に人工芝を敷いて練習場を整備
50代男性 河川敷への天然芝ピッチ作成
50代男性 市の審議会及び県の審議会の委員となって新しい屋外施設のあり方を提言している。本県でも2施設において人工芝化や天然芝化を実現した。さらに2施設の人工芝化が計画として動き出している。さらには暑熱対策や観客席設置、一般住民スポーツとの融合について様々な提言を行っている。
40代男性 ・totoの助成金により天然芝のサッカー場を町が造った。 ・電力会社が火力発電所に地域貢献として天然芝のサッカー場を整備した。（無料で開放） ・高齢化が進む地域ではグラウンドゴルフ人口が増加し、グラウンドゴルフ協会と一緒に町に要望し天然芝のサッカー場を造ってもらった。平日の朝から午後3時ごろまでは毎日グラウンドゴルフ愛好者が使っており、午後4時以降と週末はサッカーが使う状況です。お互い時間的にも好都合です。

施設の確保：活動困難な理由（抜粋）

30代男性

休遊地や廃止となった公民館等の利用を働きかけてはいるものの、行政が消極的。

70代男性

施設を作ろうといういろいろ動いているが、うまくいっていない。一番は資金不足。

自分たちの考えていることが周りの人たちに理解してもらえるように努力したい。

60代男性

サッカー協会での活動は別にして、一般の方では資金的に難しいのが現状です。（話題はたくさんですが、自分自身が施設を作ろうとまでは思えない。）それでも地道に「行政」や「民間企業」と連携を継続する必要がありますし、その能力のある人材も出てくるのではないのでしょうか。

30代男性

「施設を造る」ことは、私自身の夢でもあります。しかし、少子高齢化が進む当地域では、子供達の施設を造ることに對してあまり積極的ではありません。むろん自分一人の力ではどうにもならないため、本当に宝くじに当たることを夢見ている話にすぎません。しかし、施設を造ることに對しての助成制度があるのであれば、そのことに對して勉強し活用できるものであれば活用したいと思いません。

50代男性

2015年に入り、グランド候補地をあげて、交渉準備に入っていますが、行政相手の交渉は議会決議で時間がかかります。また、介護施設開発した経験を元に、金融機関やゼネコン、ハウスメーカーからの地主情報で、相続税対策を切り口に提案を準備していきます。行政の場合は、既存のクレーグランドを人工芝に切り替えることで、理解を求めていますし、民間の場合は、事業計画を提示し、地域貢献と雇用促進なども含めた事業性をアピールする予定です。いずれの場合も事業資金の調達も大きな課題となります。

キーワード 6

社会的課題への取り組み

社会的課題への取り組み：【賛同する】理由（抜粋）

30代男性

活動を通じてそのような力がスポーツにはあると感じています。実際に不登校や社会に馴染めない子供もサッカー教室には休まずに毎日来てくれたりしていますし、そこからまた復学した子供たちもいます。

30代男性

習い事をするのが当たり前の世の中となり、家の回りでさえも遊ぶことが制限され、危険を感じるが多くなってきております。しかし、これは、単に危険があるのではなく、危険を回避する術が乏しくなってきているようにも感じます。それは、コミュニティが形成されていないことに問題があると思います。サッカーに限らず、同じスポーツをする仲間がいるということは、それだけでネットワークが生まれ、大人と子供の関係、子供同士の関係、大人同士の関係が簡素になっていることが大きな原因であり、また他人の子供を教育することができない大人が増えてきています。スポーツチーム、クラブに所属することで、一つのコミュニティが生まれ、また、そういった組織が、自ら地域社会に出て、その輪を広げる活動が「現代病」「現代事件」を未然に防ぐことになると思っています。

20代女性

サッカーやスポーツを通して仲間の大切さ協力性などが学べると考えます。なのでこのような考えには賛同しますが、能力の差から子供は、いじめなどに発展する場合があります。なのでそのようなことがないためには指導者の能力が必要だと思えます。能力の低い子をどう伸ばしていくのかも大切だとは思いますが、それよりも、能力のある子をうまく活用していくことが大切だと思えます。例えば、能力のある子が教えることにより、コミュニケーションがとれ、仲間と教え合う大切さや、わからない子の気持ちを理解したり、お互いを理解しあえることができると思えます。なので、スポーツの良い力を教えるためにはしっかりと、仲間との協力や大切さを教えることが大切だとも思います。

40代男性

私の関わるクラブに数名の片親の子供がいます。経済的な問題や、生活時間の乱れ、万引きなど、諸問題を抱えている子供がいますが、そういった子供たちが一生懸命に好きなことに打ち込める環境を整えていくことが必要です。またいろいろな大人がそういう子供たちに関わることで、更生する手がかりとなったりするのではないかと思います。

40代男性

精神障がい者フットサルを通じて思うのはチーム内での仲間作りはもちろん、ゲームを通じて他のチームと仲良くなり自主的な交流が自然に行われることです。また、徐々に運営を障がい当事者に任ずることで他者との交渉などの社会性や協調性を増し、自分に自信が持てるようになります。今まで精神障がい者は、医療関係者にとっては「保護すべき人」、当事者にとっては「私は病気だから何もできない」といった偏見があるように思われます。スポーツだから失敗して当たり前、むしろいっぱい失敗しようという姿勢が社会参加に結びついていくのだと思います。そしてそれが失敗を許容する社会につながればよいと考えます。

40代男性

地域のクラブに、様々な年代の老若男女、在日の外国人、障がい者等が気軽に集まって、スポーツを楽しめるような環境があれば、解決できることは多いのではないかと。スポーツに限らず、囲碁・将棋クラブなどもあれば、お年寄りも来やすい。減っていく子供達を、複数の大人の目で見守ってあげることが重要である。逆に、今後急激に増えていく認知症の方々を子供達が助けることにより、育まれるものもある。また、在日外国人の方も、地域のクラブで日本人と交流することにより、日本語を覚え、犯罪に手を染める方が減っていく。

30代男性

昔の子供達と今の子供達明らかに違うと思えます。ゲームが主流になり家にじこもる子供が増え外で遊ぶ子供が減りました。林や森がなくなり家がいっぱい建つようになって、遊べる環境がなくなりました。子供たちが起こす事件も増えてきて、自分が子供だった時とくらべると明らかに、いじめ、不登校、ひきこもり、自殺、ゲーム依存、児童虐待、待機児童、など増えたと思えます。スポーツを通じて少しでも緩和できるのであれば、われわれ指導者ももっと頑張らなくてはいけません。なので賛同させていただきます。

50代男性

社会的課題に対して行政ができることは制度しかありません。しかしスポーツはソフト(活動、ムーブメント)で貢献できるものです。今社会的課題に対してソフトで貢献しているのは防止活動程度でしょう。スポーツは防止の前段階、課題が起きないようにする力を持っていると思えます。そしてそれはスポーツの使命でもあります。

<p>50代男性</p> <p>昔に比べて著しく欠如してきたものが、共同体における人間関係である。核家族化やマンション増加等コミュニティがなくなっている。このような中で子供の徳育・体育の育成の機会のはもはやスポーツしかない。プレイヤーだけではなく、回りを取り込んで、全ての人を関係者として皆で動かないと社会的課題の改善には及ばない。</p>
<p>40代性</p> <p>当チームでは不登校になりかけていた子供が普通に学校に通う様になった事例があります。チームとしてもサッカーというスポーツを通して、意義ある活動になったと実感しております。</p>
<p>30代女性</p> <p>例えば母子家庭でなかなか外で自由に遊べなくても、サッカーでつながることで未来への希望を持てたり、元気になる姿を母親がみて、元気になったり、例えば障がいがあり体をうまく動かさなくてもチャレンジしていくことで可能性が広がったり、勉強が不得意でも運動が得意で、運動の時間はみんなから注目されるとか、運動不足の高齢者が少し体を動かすことによってからだの健康維持につながったり、それぞれの個人の状況やキャラクターを活かしながら関わることで、多様性を認め合いながら、自己肯定感を育んでいけるようになるのではないかと思います。</p>
<p>50代男性</p> <p>大人の都合や事情で、辛い思いを強いられている子どもが沢山います。私が住む市内にも、そういった子ども達の面倒を見る、児童養護施設が有り、その生徒を、当クラブで無料受け入れしたり、施設に出向き教室を開催したりしています。しかし、より形を作っていくためには、予算が必要になってくることも多々あります。そういう活動に対し、もっともっと補助金等をつけてもらえれば、より強固で確りとしたサポート体制が取れるのではないかと思います。</p>
<p>20代男性</p> <p>部活動が楽しいから学校に来るとい生徒は少なくありません。私もスポーツには社会的課題を減少させる力があると思います。一方で、スポーツによるいじめや引きこもり等が生まれているのも事実です。周りについていけず居辛さを感じたり、下手な子を除け者にしたりといった危険性があります。指導者がそういったことが起きないように注意していれば、スポーツはとても効果的なものだと思います。</p>
<p>50代男性</p> <p>サッカーをしたくても家庭環境の問題でできない子供さんもいます。そうした社会的弱者に手を差し伸べるのが社会の役割だと思っています。</p>
<p>40代男性</p> <p>高校を中退し何もしていない若い世代がサッカーを通じてチームから信頼され一人前の社会人になっていく様子を何人か見てきました。まさしくスポーツを通じて学校ではできなかったことが実践できたように思っているからです。</p>
<p>50代男性</p> <p>ほとんど行われていない。私自身はぜひ取り組みたいと思います。今まで生活面で課題を抱えた選手と多く接してきました。サッカーで助けられた選手もたくさんいると信じています。こういうことをもっと意図的に取り組みたいと、この年齢になって思っています。</p>

社会的課題への取り組み：【どちらでもない】理由（抜粋）

<p>40代男性</p> <p>スポーツだけの力では解決は難しい。現に、スポーツをやっている、その環境でいじめや体罰を受け、引きこもりになってしまった人もいるのだから</p>
<p>20代男性</p> <p>社会的課題になる理由は様々であり、干渉してよいものか個々での判断が難しいものもある。もちろん理想としてはスポーツを通じて～といったことがあればよいが、サッカーにすべて関連付けることは難しい。様々な分野の人間が協力して進めるべき課題であるのではないか。</p>
<p>30代男性</p> <p>サッカーやスポーツがそういった社会的課題を解決する入口になることはあると思う。ただ、たかがサッカーやスポーツだという1面も忘れてはいけないと思う。中にはサッカーやスポーツを嫌いな人もいます。そういう人の考え方も尊重しなければならぬはず。</p>

40代女性
考えはとても素敵だと思いますが、まずはサッカーの環境整備が優先ではないかと思います。
30代男性
考え方自体に賛同はするが、正直具体的にスポーツがどう関わったらよいのかわからない。絵に描いた餅にはしたくない。特に社会におけるスポーツの価値を高めることがそこまで重要なかわからない。
60代男性
少子化、親の考え方、等難しい問題である。関与するには限界があります。
30代男性
スポーツで社会的な状況を改善できると思うが、家庭的な背景が多すぎてサッカーがどこまでの役割を果たすことができるかわからない。
30代男性
サッカーの取り組みだけで手一杯なことが多いため

社会的課題への取り組み：【賛同しない】理由（抜粋）

10代男性
スポーツが苦手な人にとっては苦痛である場合や、スポーツがきっかけでそうになってしまう可能性も、あると思う。
40代男性
スポーツと教育は切り離れた方が良いと思います。スポーツは体育ではありません。結果的に社会的課題の効果は有ると思いますが、社会的課題の解消のためにスポーツをするのは本末転倒。あくまでもスポーツを行ううえでの副産物という位置付けが良い。期待するものではないです。
50代男性
社会的課題が顕在化してからのスポーツに力があるとは思えない。幼少期からの継続した活動にこそ貢献できると考えるが、どのような活動になるかわからないままで賛同できない。
40代女性
社会の深刻な課題にいきなりスポーツでサポートするのは難しいのではないか。継続が難しいのではないか。

社会的課題への取り組み：活動事例（抜粋）

30代男性
以前、児童養護施設の職員をしていたときに子どもたちにサッカー指導をしたことがあるが、個人のミスが目立たず、また仲間がカバーできる部分が多いことから、サッカーの人気が高かった。施設の子どもは虐待や複雑な家庭環境、また愛着障害や発達障害などで自己肯定感が低く、何事にも自信のない子どもが多い。ミスや人に劣っていることを怖れてチャレンジしない、何かを始めない子どもが多いが、サッカーというスポーツは誰にでもでき、人数が多くて人との差が気にならない利点から、抵抗なく始められるスポーツのように思われる。実際に子どもたちは笑顔で楽しくボールを追っていた。放課後に何もやることのない施設の子どもは非行に走る傾向があり、地域に誰でも参加できるサッカー場があり、適切にオーガナイズできる大人がいれば、その一助になるのではないかと思う。
40代男性
家族関係の希薄化により、社会性が構築できないまま大人になってしまうことがあります。そこで「ファミリーフットサル大会」を開催し、家族が笑いあえる関係を支援しています。また、障害者スポーツを支援することにより、家に引きこもりがちな障害者の活動の場所を設けています。
20代男性
監督を務めている精神障害者チームの選手は引きこもり、不登校、退学などを経て現在チームに参加しています。みんなフットサルに救われています。
50代男性

<p>不登校、引きこもりの選手には昼間にサッカーができる環境づくり。待機児童に対して小規模保育園の設立。児童養護施設の子供たちにサッカー教室(ボランティア活動)。保育園、幼稚園の子供たちにサッカー教室(ボランティア活動)</p>
<p>30代男性 精神障害者や知的障害、発達障害、自閉症、引きこもり、不登校と垣根を作らず、病院のリハビリではなく、スポーツ振興を趣旨としたNPO主催でフットサル教室に参加しています。</p>
<p>30代男性 不登校・ヒキコモリの生徒たちを、運営している社会人チームに受け入れ、社会との接点を作ろうと取り組んだ。現在、受け入れた生徒は無事に社会人として、職に就いており、結婚し家庭を持った生徒もいる。</p>
<p>50代男性 わずかですが、過去の教員経験から、両親の離婚による生徒の孤立と非行、いじめ、不登校を目の当たりにしてきました。何とか、サッカーに興味を持ってもらい、仲間を作ることに素晴らしさや、スポーツの楽しさを伝えてきましたが、場づくりとしては、不十分でした。問題は、「親からの自立」「子供からの自立」と見極めるなかで、子供たちが学校を卒業して社会に出てからも、関わりを持ちながら、現在もたくさんの元生徒を見守り続けています。そのひとつの手法がサッカーであります。これからも、学生から社会に出て、就職や転職、結婚や出産など、社会的責任を身につけて頑張っている人たちに、「生涯教育」と「生涯スポーツ」の素晴らしさを推奨するつもりです。</p>
<p>40代男性 不登校やADHD、LDの子たちが学校行かないけど、サッカーには来てくれており、その中で、学校にも行けるように取り組んでいる</p>
<p>40代男性 私は小学生年代のチームに関係していますが、保護者とその子供との距離関係（自立）を考える場となるよう運営しています。いじめ等へのアプローチも低学年（小学1年生）から実施しています。アンケート等での状況把握はしていませんが、各学年担当コーチと密に情報交換し、対応を探っています。これまでも程度の軽い自閉症の子が入団してきました。無事昨年度に卒業し、現在もサッカーを続けてくれていますが、その保護者とのコミュニケーションは大変でした。</p>

その他（抜粋）

40代男性

とにかく、子供が自由にボール遊びができる場が必要。集団で楽しくボール遊びができると、1人でゲームをやるより面白いはず。子供が楽しく遊べる場を大人が子供達から取り上げているのだから、ゲームばかりやるのは当たり前。これは大人の責任だと思う。また、子供達だけで遊ぶことにより、大人から与えられるだけではなく、自分たちでルールを決めたり、新しいことにチャレンジしたりといった能力が育つ。子供のころに自由に遊ぶことを抑制されていたら、大人しい若者になるのは当たり前。これも大人の責任だと思う。ぜひとも、自由にボール遊びができる公園を全国に広げる取り組みをしていただければありがたいです。

60代男性

指導者によっては、未だに「勝利至上主義」にこだわって、個人のスキルより組織プレーを、選手自身に考えさせるより、大人の考えを押し付けるという指導をしている人が多いです。同じクラブの中でも指導方針や方法にばらつきがあるのが現状です。それを解消するため、JFAからグラスルーツ指導者への働きかけがまだまだ不足していると感じています。指導者資格の講習を受けた人でさえ、クラブに帰れば今までとそんなに変わらない指導をしているという現状を認識していただきたいと感じます。選手に対しては『トレセン』があり、質の高い指導が行われるようになりましたが、同様に、各地域での指導者講習を、高頻度で実施する等の対策があってもいいのではないのでしょうか。

30代男性

JFAが取り組もうとしている事には賛同致しますが、それが各市町村のサッカー協会まで具体的に伝わって、またそれを実行するための障害を取り除く必要があると思います。リーグ戦の導入などは、サッカー協会レベルではなく、すでに各チーム単位ですっと前から取り組まれていたりしています。結果的には、町クラブは、JFAでは無く、所属している地域のサッカー協会が何をしてくれるのかを期待していますが、これまでもJFAが唱えている取り組みに対しての具体的なアクションが非常に乏しい気がしていますので、提唱するだけでなく、これまで提唱してきた事が、現場ではどう取り組まれていたのかを十分に検証し、提唱プラス具体的なアクションも実行力を持って頂けると現場の皆さんも生き生きと活動できると思います。

30代男性

6テーマすべて大切なものだと思います。積極的な活動、セミナー開催などを期待しております。特に活動場所の確保は私たちのような首都圏で活動しているものにとって非常に重要なテーマです。環境の維持、保全等は我々指導者の使命でもあると思いますが、なかなか一人一人では活動場所を創ることは困難です。是非、JFA主導のもと、展開して頂けたらと思います。それにより、様々なリーグ戦の開設、社会活動等道が拓けるのではないかと思います。

30代男性

スポーツ（サッカー）がもっと開かれた存在になる為には、地域の方々が集う場所にする必要がある。何かの為に集まるのではなく、そこに行けば楽しい、面白い、と感じれる何かが必要で、それは、人との出会いではないでしょうか。ただ単に、スポーツをする場、ではなく、カフェやバーのように、仲間ですここについて、スポーツをするもよし、ただたんにお茶したり、話したりするような、気軽に立ち寄れて、楽しく感じれる時間を過ごせる場として、一つのコンテンツとしてのスポーツと言う立ち位置もあるかと思います。地域の老人が、子どものサッカーを見ながら、お茶を飲みながら友達と談笑し、保護者もそこに交わって、いろいろ話をする事で、地域社会のハブとしての可能性を秘めていると思います、

50代男性

スポーツ特区を作って、スポーツをモチーフに社会問題に取り組む事業を行ってほしい。一つは、健康増進を図るために、全世代で学校で行うような運動能力テスト/体カテストを行い、統計情報を整備する事業を行ってほしい。そこから、各世代なり、各種競技従事者なり、指標を持つようにすれば、個人レベルにある種の目標を提示することができ、健康増進の一環で住民皆スポーツ社会が実現し、社会問題に色々な形で取り組めるのでは無いかと思う。

40代女性

せっかくサッカーをしてるのに試合を経験する機会が少ない子が出るのはおかしい。上手い下手はあるにしてもクラブチームでもないのに子供に差をつけすぎてるのはおかしい

試合の経験が少なければそこから成長できる機会も少ない。いくらプロの指導者じゃなくても下のレベルの子をほったらかしにしてるのはおかしい。弱いなら弱いなりに伸びる可能性があるかもしれない。コーチをやるなら指導法ももう少し学んでほしい。

40代男性

育成世代（特に3種以下）の干されている選手達へ手を差し伸べて欲しい。4種と関わってた数年の間、真面目に練習に参

加して頑張ってきたのに公式戦予選リーグ敗退が決まった後の消化試合にすら出してもらえず公式戦に1度も出ること無くサッカーに幻滅し離れていってしまった子供達をたくさん見てきました。これは3種の部活にも同じことが言えます（というかもっと酷い）。これはサッカー界にとって非常に損失だと思います。育成の本質の追求をJFAには強制力を以って現場への指導をお願いしたいと思います。

40代男性

・「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」が大きなテーマであったが、非常に良い取り組みだと思う。サッカーは個人では限界があるので、1.もっとシニアカテゴリを充実してほしい。2.各都道府県に球技場、専用サッカー場とうの施設は保有しているものの、ハンディキャッパー障害者がプレーできる施設は無いに等しいぐらいの割合だと思う。（ピッチのみならず、トイレ、シャワー施設等）少年期からのボトムアップは欠かせないが、サッカーのすそ野を広げるにはハンディキャッパーが正々堂々と使用できる施設の整備を期待する。

40代男性

各地域や各町等でも工夫しながら様々な問題に取り組んでいます。ですがなかなか先に進めないのが実情です。資金力の面でもそうですが、様々な問題（プレーヤー・指導者等人員的なもの等々）。行動に起こすきっかけ的なものを示していただければ、熱い心も持った人達は沢山いると思います。よろしくお願い致します。

50代男性

私の子供時代と比較すると、日本サッカーの飛躍は画期的と言ってもいいほどです。しかしながら、それに伴う恩恵が末端まで行き届いているかという点で疑問です。特に施設面の貧弱さの削減は、それほど大ききでもなく、私の子供時代と大差ありません。相変わらず、雨が降ればドロドロの、天気が続けばカチカチのグラウンドで、老いも若きもプレーしています。JFAの取り組みは素晴らしいと思います。ぜひ続けて続けて、続け続けて、世界に誇れるようなサッカー大国に、スポーツ大国に押し上げてください。JFAがその推進役になることを期待します。そうできる柔軟で快活な組織になってほしいと、せつに望みます。

20代男性

改めて、サッカーやその他のスポーツについて考えることができた。このような機会を生かして、指導者として子どもの意識をどこまで高められるかを常に考えていきたい。そして、自分が学んだことをチーム内の指導者と共有したり、子どもに話したりして、地域に根差したお手本となるチーム、選手の育成を目指したい。そうすることで、「このチームに入れば、人間として成長できる」と思ってもらえるはずだし、少子化を言い訳にしないチーム経営ができるのではないかなと思う。子どもが楽しんでサッカーをでき、生涯スポーツとしてサッカーを選べる環境を作ってあげたい。指導した子どもが大人になって、チームの指導者となって帰ってきてくれる時が、指導者をしてよかったと感じる瞬間なのかもしれない。これからも、スタッフ、選手で力を合わせて地域に貢献できるチームを作る努力を続けていく。

50代男性

継続出来る環境を作ることこそが、一番ベストではないかと思います。継続する意味においては、それぞれの地域の人間が軸になり活動することが基本です。御提案はとても素晴らしいことだし、是非旗を振って頂ければ幸いです。そして、各地区に於いて、軸になる人間を育てながら継続できる環境を作ること、そこをカバーすることが協会に求められる作業かと思っています。グラウンドを作ること、そのために汗を流せる人がいてこそだと思います。より、地域と多くのコミュニケーションをとれる機会・環境を是非とも作って頂けると幸いです。

30代男性

U-9を指導する立場から、キッズリーダーの受講や、いろんな講義を受講をしています。息子がチームに入ったので、近くで見たいという気持ちだけで参加したサポートコーチですが、指導者としてどうすればいいのか、いろいろ考えた末に上記の受講を受けることにしました。講義の内容はどれもすばらしく、目からウロコの内容ばかりです。その内容を自分自身のリテラシーをもってチームに還元することが自身の使命だと考えています。現状は受講内容と大きく違い、こうしてはいけぬ、というようなことが現場ではたくさん行われています。大人のマナー、コーチや保護者の叱咤、プレッシャー、細かくいうと、ずっと固定のポジション、ミスを責める、等。そういう環境だったので、それが普通だと思っていましたが、実は大きく違っていたと受講してはじめて気づきました。小学校が母体のチームなので、指導者も審判も運営もすべて保護者のボランティアで運営しています。保護者が係るチームは多いと思います。お父さんコーチや保護者のボランティアコーチ向けの簡単な受講コースがあればいいなと思います。受講はわざわざ行かない人も多いと思うので、できれば出張型で。自身の考えですが、コーチを生業にしている人も、ボランティアでしている人も、お父さんコーチも、子

ども達にとっては全て「コーチ」です。すべての「コーチ」が勉強していく必要があると考えます。その場をもう少し設けていただけたらと思います。

30代男性

どうかお願いします。サッカーチームに所属する小学四年生の保護者です。練習試合や大会を観に行くと、ほとんどのチームの指導者が、子ども達のミスを叱責し、怒鳴りつける場面を度々目にし、胸が痛みます。「?するな!」、「早く出せ」等子どものプレイを否定するネガティブな声かけ、判断を奪うような指示に、自信を失い、子どもは自分で考えることをやめているように思います。試合に出ると怒鳴られるので、試合は嫌いと言う子もいます。私の子どものチームだけではありません。多くのチームで同様の場面を何度も、何度も目にします。子どもは指導者や、大人の所有物ではありません。熱い気持ちは充分伝わりますが、上達させるには、逆効果ではないでしょうか? 育成年代では、子どもに自信を与え、サッカーの楽しさや、チャレンジする心、可能性を伸ばす指導をして頂くように、指導者の方々に研修等で周知徹底を何卒お願いします。

30代女性

障害者サッカーに近年スポットが当てられていることを非常にうれしく思います。私自身もいわゆる当事者＝障害を持つもので、今後の活動の広がりを楽しみにしております。私が現在関わっているのは精神障がいの方たちのサッカー活動です（大きな大会できないかな……）。精神で障害を持つ方たちは、見た目には障害の深刻さがわかりにくいいため、苦労されていることも多々あるようです。私もひょっとしたら、このようにカミングアウトする機会が無ければ健常者の方と間違われるかもしれません。一つ言えるのは、障害を持った方たちも、そうでない方たちも、ボールを囲めばそのようなことは関係なく純粋にサッカーを楽しんでおられるということです。改めて、このスポーツに出会えたこと、このスポーツを好きになったことに感謝しています。



第1回 JFA グラスルーツアンケート調査 報告書

2015年12月

公益財団法人日本サッカー協会 グラスルーツ推進部

本協会の事前の承諾なく本報告書の転載や二次利用を行うことを禁じます。